

国士館史関係資料の翻刻並びに補註

第七卷

凡例

- 一 ここには、国士館史編纂のために調査収集した資料のうちから、翻刻・校訂と補註が終了し、重要度が高いものを順次紹介する。
- 一 資料には、巻別に適宜、通し番号と表題を付し、その下に（ ）で出典を略記した。
- 一 資料は、漢字・仮名遣いとも、できるだけ原本に忠実に翻刻したが、一部に句読点を補い読みやすく改めた。
- 一 資料中の漢字は、原則として常用漢字に改めた。ただし、常用漢字にないものおよび地名・人名など特に必要と認めたものは、原本のままとした。
- 一 現在では読みにくくなった語句には、平仮名でふりがなを付したが、もともと原本にあるふりがなは片仮名で表記した。
- 一 資料の成立事情及び資料中に使用される用語で意味を解しにくいものには、簡略な補註を付し、読者の理解に資した。
- 一 資料の翻刻・校訂は、国士館史資料室収蔵の原本、ないしは原本から作成した忠実な複製資料によった。

一 昭和三十二年九月 国士館大学設置認可申請書（総務課保管資料）

（表紙）

「国士館大学設置認可申請書」〔印〕

大学設置認可申請書

このたび国士館大学^{*}を設置したいと思えますから学校教育法第四条の規定によってご認可下さるよう別紙書類を添えて申請いたします

昭和三十二年九月三十日

設置者

学校法人国士館理事長柴田徳次郎（印）

文部大臣 松永東殿

国士館大学体育学部設置認可申請趣旨

本学は元国士館専門学校と称し、昭和四年開校以来四年制専門学校として、武道及び国漢、地歴兼修の中等教員を養成し来ったのでありますが、昭和二十年敗戦の結果、教科目としての武道は廃止されました。昭和二十八年四月国士館短期大学^国経済科（第二部設置）^文科が認可され、更に昭和三十一年四月同大学体育科（三年

制)増設の認可を受け、武道科としての長年の歴史を基礎に、一般体育を加え復活することになり今日に及びました。今回は新に国士館大学を設置し体育学部として、人格涵養の点で、実力の点で、且つ指導力の点で一層の充実を図りたく、且つ又中学校高等学校に於ける体育科有資格者教員の甚大な需要、要求に応じ特に有資格者、武道指導者の需要緩和に寄与したく以て新日本の要求する「健全なる身体、健全なる精神」の新国民練成を目標として国士館大学体育学部設置認可の申請に及んだ次第であります。

尚、現在中学校、高等学校に於ては体育科教員の内、有資格者以外、他教科担任の兼担又は無資格者に依存すること多き実態は別表第一の如くであり、又現在体育科を設置する大学並に卒業者数は別表第二(昭和三十年度大学一覧による)の如くで、体育科有資格教員需求の甚大なるに比し供給源の大学数の少い現状を知るのであります。一方中学校高等学校に於ける柔剣道も従来に増し隆盛をみる今日、有資格武道指導者の数も亦僅小(マ、少カ)なものがあります。

〔別表第一、第二略〕

書類目次

一 国士館大学設置要項

二 学 則

- 三 校 地 (図面添付)
- 四 校舎等建物 (図面添付)
- 五 図書標本機械器具等施設概要
- 六 学部及学科別学科目又は講座
- 七 修業年限・履修方法及び学士号
- 八 学部及学科別学生定員
- 九 職員組織
- 十 設置者に関する調
- 十一 資 産
- 十二 維持経営の方法
- 十三 開 設 年 次
- 十四 現在設置している学校の現況
- 十五 将来の計画

(内表紙)

「一、国士館大学設置要項」

第一 国士館大学設置要項

一、名称

国士館大学

二、位置

東京都世田谷区世田谷一丁目一〇〇六番地

三、目的及使命

本学は教育基本法の精神に基き、広く一般の基礎教育に関する学術及び専門の体育科学に関しての知識技能を修得させることを目的とし、世界文化の進展に貢献すると共に、教育界、体育界並に実業界における社会人を育成することを使命とする。

国士館大学体育学部創設理由

本学は元、国士館専門学校と称し、昭和四年以来、武道、国漢(地歴)兼修の中等教員を養成して参りましたが、昭和二十年終戦以来、武道は廃止されましたので、昭和二十八年三月国士館短期大学国文科並に経済科(第二部)として設立認可され、更に同三十一年四月体育科(三年制)の増設認可を受けまして復活致すことになりました。今回は新に国士館大学を創設して国士館短期大学の

内体育科を昇格せしめ体育学部を置き充実を図りたく、また現下中等学校における体育教員の不足緩和にも寄与致したく、に申請に及びました。

四、校 地

総坪数 二二、三七〇坪三五

専用 一八、〇八一坪 国士館大学

共用 四、二八九坪三五 国士館短期大学 国士館高等学校 国士館中学校と共用

五、校舎等建物

総坪数 三、一六三・〇八坪

専用 一、九四一・〇八坪 国士館大学体育学部

共用 一、二二二・〇〇坪

内 訳

八七六・二五坪 国士館短期大学と共用

三四五・七五坪 国士館高等学校と共用

六、図書標本・機械器具等施設概要

(一) 図 書

総数 四〇、九三一冊

専用 一四、〇五五冊 国士館大学体育学部

同 (二三、七三五) 国士館短期大学(国文科経済科)

共用 三、一四一冊 国士館短期大学同高等学校と共用

(二) 標本

総数 八四〇点

専用 三一〇点 国士館大学

共用 二九五点 国士館短期大学と共用

(二三五点 国士館高等学校専用)

(三) 機械器具

総数 二、二四一点

専用 一、三一六点 国士館大学

共用 一七五点 国士館短期大学と共用

(七五〇点 国士館高等学校専用)

七、学部及学科の組織並に附属施設

| | |
|---|-------|
| 部 学 育 体 | 学 部 |
| 科 学 育 体 | 学 科 |
| 一般教育課目 人文科学関係 哲学 倫理 史学 社会学 法学 心理学 経済学 教育学 自然科学関係 生物 統計学 | 学 科 目 |
| 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 学学学 | 必修単位数 |
| 四四四 四四 四四 四四 四四 四四 四四 四四 四四 四四 | 選択単位数 |
| 日本国憲法を含む | 備 考 |

- 八、学部及学科別学科目概要並びに教職課程の有無
- (一) 学部及学科別学科目
- (一) 学部及学科の組織
- 体育学部 体育学科
- (二) 附属施設
- 附属図書館 体育館

部 学 育 体

科 学 育 体

| 体育方法第一(体操) | 救急処置及看護法 | 学校保健 | 健康教育 | 医学概論 | 体育社会学 | 体育测定学 | 体育方法学 | 体育管理学 | 体育心理学 | 体育史 | 体育原理 | 发育学 | 個人及公衆衛生論 | 細菌及免疫学 | 栄養学 | 運動生理学 | 解剖及生理学 | 専門科目 | 計実講 | 保健体育 | 計独英 | 外国語科目 | 計 | | | | | |
|------------|----------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|-----|----------|--------|-----|-------|--------|------|-----|------|-----|-------|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 四 | 二 | | | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 六 | | 四 | 二 | 二 | 一 | 二 | 二 | 二 | 八 | 二 | 八 |
| 三 | 四 | | 二 | 四 | | | | 四 | | 二 | | | 四 | | | | | | | | 八 | 四 | 四 | | | | 一 | 六 |

(二) 教職課程の有無

- 2 本大学教職課程の教職科目は次表の通りとする。
- 1 本大学体育学部に教職課程を置く。

| 部 学 育 体 | 学 部 |
|---|--|
| 目 課 職 教 | 学 科 |
| 計 教 育 史 教 育 実 習 保 健 体 育 科 教 育 法 青 年 心 理 学 教 育 心 理 学 教 育 心 理 学 | 学 科 目 教 育 原 理 教 育 心 理 学 教 育 心 理 学 教 育 心 理 学 教 育 心 理 学 |
| 一 六 | 必 須 単 位 数 |
| 二 三 三 三 四 四 | 選 択 単 位 数 |
| 二 | 備 考 |

| 部 学 育 体 | |
|--|---|
| 科 学 育 体 | |
| 計 卒 業 論 文 体 育 測 定 学 実 験 体 育 心 理 学 実 験 解 剖 及 生 理 学 実 験 体 育 方 法 第 八 (專 攻) 体 育 方 法 第 七 (球 技) 体 育 方 法 第 六 (ス キ) 体 育 方 法 第 五 (水 泳) 体 育 方 法 第 四 (球 技) 体 育 方 法 第 三 (格 技) 体 育 方 法 第 二 (體 操) | 七 二 五 八 一 一 一 四 二 四 四 四 二 三 二 |
| 四 四 | 必 須 単 位 数 |
| 二 二 二 二 八 | 選 択 単 位 数 |
| | 備 考 |

九、修業年限、履修方法及学士号

(一) 修業年限

体育学部の修業年限は四ヶ年とする。

在学年限は八ヶ年を超えることは出来ないものとする。

(二) 履修方法

1 体育学部体育学科の学科目は、一般教育科目、外国語、保健体育科目、専門科目及び教職科目の五つとし、又夫々の学科目を必修科目と選択科目とに分ける。

2 学生は第一年次、第二年次には一般教育科目、外国語、保健体育科目を主として履修し、第二年次に於いて一般教育科目の履修を全部終るものとする。尚、第一年次、第二年次において専門科目の一部及教職科目の一部を加え履修するものとする。〔履修図、略〕

3 学生は第三年次、第四年次に於て主として専門科目及教職科目を履修するものとする。但し教職科目は教員免許状取得希望者に限り必ず履修を要する。

4 外国語は四ヶ年に亘り履修するものとする。

5 専門科目中体育方法（実技）は第一年次より履修するものとする。

6 学生は第四年次に於て卒業論文を提出しなければならない。

7 学生は毎学年始めに当該年度に開設する学科目の中、必修科目の外選択科目より必要単位を選択し、此れを届出で履修するものとする。

8 一科目の課程を修了したものには次の基準により単位を与える。

(1) 講義は一時間の講義に対して教室外に於ける二時間の準備のための学習を必要とすることを考慮し毎週一時間十五週の講義を以て一単位とする。

(2) 外国語及演習は教室内二時間の授業に対して教室外一時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週二時間十五週の授業及演習を以て一単位とする。

(3) 実験、実習、実技等は学習がすべて実験室、実習場で行われるものとし、毎週三時間十五週の実験、実習、実技を以て一単位とする。

9 卒業要件としての最低要求取得単位数は次の通りとする。

(1) 一般教育科目において、人文、社会、自然の三系列の関係科目にわたって必修科目を含め夫々三科目十二単位以上合計九科目三十六単位以上を取得しなければならない。

(2) 外国語は第一外国語英語及第二外国語独逸語とし、第一外国語八単位以上第二外国語四単位以上を取得しなければならない。

(3) 保健体育四単位を取得しなければならない。

| 事務員 | 助教 | 助教授 | 教授 | 学部長 |
|-----|----|-----|----|-----|
| 四 | 七 | 四 | 一 | 一 |
| 二 | 一 | 五 | | |
| 一 | 〇 | 一 | | |
| 四 | 九 | 五 | 二 | 二 |
| | | | | 一 |

十、職員組織概要

2 本大学体育学部を卒業したものは体育学士と称することができる。

試験に合格したものと看做し、卒業証書を与える。

1 本大学学部で四年以上在学し、所定の授業科目を履修し定められた単位数を取得した者は、学士

(三) 学士号

- 11 教員免許状の授与を希望する者は、前条履修単位の外、教職科目について必修科目を含め十六単
位以上を取得しなければならない。
- 10 単位履修の認定は主として試験、研究報告、卒業論文による。

- (5) 卒業資格としての最低要求取得単位数は前各項による合計百二十四単位以上である。
- (4) 専門科目において必修科目を含め七十二単位以上を取得しなければならない。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合 | そ | 医 | 司 | 書 | 学 | 事 | 図 |
| | 看 | | | | 生 | 務 | 書 |
| | の | 護 | | | 部 | 局 | 館 |
| 計 | 他 | 婦 | 師 | 書 | 記 | 長 | 長 |
| 四 | | | | | 一 | | |
| 八 | 一 | 一 | 二 | 〇 | | 一 | 一 |
| 九 | | | | | | 一 | |
| 一 | | | | | | | |
| 一 | | | | | | | |
| 六 | | | | | 一 | | |
| 八 | 一 | 一 | 一 | 二 | 〇 | 一 | 一 |

十一、学部及学科別学生入学定員、総定員

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学 | 部 | 学 | 科 | 入 | 学 | 定 | 員 | 総 | 定 | 員 |
| 体 | 育 | 体 | 育 | 一 | 〇 | 〇 | 名 | 四 | 〇 | 〇 |
| 合 | 計 | 一 | 〇 | 〇 | 名 | 四 | 〇 | 〇 | 名 | |

十二、設置者

学校法人国士館理事長 柴田徳次郎

十三、維持経営の方法概要

授業料、入学金、入学検定料、施設費、諸証明手数料、体育館、プール、運動場等の使用料、維持員
会寄附金、資産より生ずる果实等を以て維持経営する。

十四、大学開設の時期

昭和三十三年四月

十五、開設年次

第一年次、第二年次、第三年次

十六、併設学校附属研究所等の概要

(一) 併設学校

国士館短期大学

体育科 (三年制) (国士館大学体育学部設置認可と共に学生募集を停止する。)
国文科、経済科 (第二部)

国士館高等学校—普通科、商業科 (夜間)

国士館中学校

(二) 附属研究所 なし

(内表紙)

「二、学則」

第二 学則

国士館大学々則

第一章 総則

第一節 目的及使命

第一条 国士館大学（以下本大学という）は、教育基本法及び学校教育法の精神に基き広く一般の基礎教育に関する学術に更に専門の体育に関する科学の理論と実際とを教授、研究しそれ等の知識技能を修得させることを目的とし、世界文化の進展に寄与貢献すると共に、教育界、体育界並に実業界に於ける社会人を育成することを使命とする。

第二節 学部・学科の組織

第二条 本大学に体育学部を置く。体育学部は体育学科を以て組織する。

本大学体育学部に教職課程を置く。

第三節 学生定員

第三条 本大学体育学部に入学者定員は左の通りとする。

体育学科 一〇〇名

第四条 本大学体育学部の学生総定員は左の通りとする。

体育学科 四〇〇名

第二章 通則

第一節 学年・学期及休業日

第五條 本大学の学年は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

第六條 学年を分けて左の二学期とする。

前期 自四月一日 至十月十五日

後期 自十月十六日 至三月三十一日

第七條 本大学の休業日は左の通りとする。

国民の祝日

日曜日

国士館創立記念日（十一月四日）

春期休業 自三月二十一日 至四月五日

夏期休業 自七月二十一日 至九月十日

冬期休業 自十二月二十五日 至翌年一月十日

春^(マ)季、夏^(マ)季及冬期休業の期間に就いて学長が必要と認めるときは変更することがある。

臨時休業は、その都度学長が決定する。

第二節 入学・休学・退学及転学

第八條 入学は学年の始めにおいてする。

第九條 本大学学部に入學することのできる者は、左の各号の一に該当するものでなければならない。

1 高等学校を卒業した者

2 通常の課程による十二年以上の学校教育を修了した者

3 通常の課程以外の課程により前項に相当する学校教育を修了した者

4 外国に於て学校教育に於ける十二年の課程を終了した者

5 文部大臣の指定した者

6 その他本大学に於て高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

第十條 前条の資格を以つて入學を志願する者には本大学所定の入學試験を課しこれに合格した者に入學を許可する。

第十一條 入學志願者は本大学所定の左の書類に定められた入學検定料を添え指定期日までに提出を要する。

1 入學願書

2 履歷書

3 出身学校の調査書又は卒業（修了）証明書及成績証明書

4 写真（半身像、手札型最近のもの）

5 身体検査書

6 右の外推薦による入学志願者に限り出身学校長推薦書、人物検査書を要す。

第十二条 他の大学から本大学各部に転入を希望する者は、その大学の承認のある場合に限り教授会の詮衡を経て入学を許可することがある。

第十三条 前条により本大学に転入学又は編入学を希望する者は第十一条所定の提出書類入学検定書に加えて在学した大学の単位修得証明書及成績証明書を添付しなければならない。

第十四条 入学を許可された者は、指定期日迄に本大学所定の宣誓書、保証人連署の在学保証書、戸籍抄本其他必要書類を提出し、且つ入学金及授業料を納付しなければならない。指定期日までにこの手続きを完了しないときは入学許可を取消すことがある。

第十五条 保証人は父兄又は父兄に代つて本人を保証することが出来る者に限る。

第十六条 保証人が遠隔の地に居住している場合は、別に副保証人を設けなければならない。

副保証人は東京都内又はその近傍の地に居住し、独立の生計を営む成年者とし、且本校において適当と認められた者に限る。

第十七条 保証人及副保証人は、その保証する学生の在学中の事項に就きその責任を負うものとする。

第十八条 学生及保証人又は副保証人はその身分・住所・職業等に異動が生じた時は、直ちに届出なければ

ばならない。

第十九条 保証人又は副保証人に変更の必要が生じた時は直ちに願出て許可を受けなければならない。

第二十条 学生が病気又は已むを得ない事故のため欠席する時は理由を具し本人より届出なければならない。欠席七日以上に亘るときは理由を具し保証人連署で届出を要する。又病気のため七日以上欠席するときは医師の診断書を添付しなければならない。

第二十一条 学生が病気又は事故のため三ヶ月以上に亘り通学出来ない場合は許可を得て休学することが出来る。休学しようとする者はその理由を具し保証人連署の休学願を学長に提出しなければならない。病気による休学の場合は医師の診断書を添付しなければならない。休学期間中でもその事故が止み、休学取消を願出た時は復学を許可することがある。

休学期間を経過し休学の事由が消滅したときは、休学者は直ちに復学願を提出し、学長の指示を受けなければならない。

休学期間は在学期間に算入することなく、授業料其の他の納付金の徴収は行わない。

第二十二条 学生が病気其他已むを得ない事由で退学しようとするときはその理由を具し保証人連署の退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

前項によって退学した者が再入学を願出た時は、選考の上許可することがある。

第二十三条 学生は左記各号の一に該当するときは教授会の協議の上除籍される。

- (一) 体育学部にて八年在学しても尚卒業が出来ない者
- (二) 操行が不良で改善の見込のない者
- (三) 学力劣等で将来成業の見込のない者
- (四) 無届で三ヶ月以上連続欠席した者
- (五) 授業料其他規定された納付金を納入しない者

第三節 入学検定料、入学金及授業料

第二十四条 本大学に入学を志願する者は所定の入学検定料を納付しなければならない。

第二十五条 本大学に入学を許可された者は所定の入学金、授業料、施設費、教材費、実験実習費等を納付しなければならない。

第二十六条 本大学の授業料その他は毎学年初めに納入するものとする。

第二十七条 本大学の入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金の額については別に定める。

第二十八条 学生は在学中に授業料其他納付金に変更があつた場合には新に定められた金額を納付しなければならない。

第二十九条 既に納入した入学検定料、入学金、授業料その他の納付金は如何なる理由があつてもこれを返

還しない。

第四節 教職員組織

第三十条 本大学に学長、図書館長、事務局長、学生部長、書記、司書、看護職員を置く。

第三十一条 本大学に教授、助教授、専任講師、助手、兼任講師を置く。

第三十二条 本大学の教職員の職制及業務処理についてはこれを別に定める。

第五節 教授会

第三十三条 本大学に教授会を置き、学長、学部所属の教授を以ってこれを組織する。但し必要と認められた場合は助教授、専任講師その他当該関係教職員を加えることが出来る。

第三十四条 教授会は学長の教育に関する諮問機関とし、学長がこれを召集し、その議長となる。

第三十五条 本大学教授会は学長又は教授会の提案する左の事項を審議する。

- 一 学則の制定、改廃に関すること
- 一 学科課程及授業に関すること
- 一 学生の入学、退学、休学、転学、除籍、賞罰に関すること
- 一 学生の試験及卒業論文に関すること
- 一 学生の卒業に関すること

一 学生の厚生、補導に關すること

一 研究及教育に關すること

一 其他教育上重要なこと

第六節 附属図書館

第三十六条 本大学に附属図書館を設ける。

第三十七条 本図書館は国士館大学、国士館短期大学及国士館高等学校の教職員及学生生徒の研究並に教育に必要な図書を集保保管し閲覧させることを目的とする。

第三十八条 本図書館の閲覧時間は別にこれを定める。但し祝日、本大学記念日、日曜日は休館とする。尚必要に応じ適宜休館することがある。

第三十九条 定められた規則に違反し、又係員の指示に従わない者は、入館を拒絶することがある。

第四十条 図書閲覧、其他に關する細目は別にこれを定める。

第七節 保健施設

第四十一条 本大学は教職員及学生のために、医務室を設置し、一般養護に關する任務の外、健康増進に關する指導を行う。

第四十二条 医務室に左の職員を置く。

医師、保健婦

第四十三条 医務室に関する細則は別にこれを定める。

第三章 学部

第一節 在学年限、学科課程

第四十四条 本大学体育学部体育学科の在学年限は四ヶ年以上とする。

第四十五条 本大学体育学部体育学科に於て開設する授業科目は一般教育科目・外国語科目・保健体育科目及び専門科目とし、それぞれの学科目・必修単位数・選択単位数・開設単位数及開設年次は別表第一及別表第二による。

別表の外必要に応じて特別講義又は演習を開講することがある。

第二節 履修方法

第四十六条 学生は一般教育科目、外国語、保健体育科目、専門教育科目の各学科目を履修しなければならない。但し教員免許状取得希望者は前項の外に教職課程の各学科目を履修しなければならない。

第四十七条 一般教育科目は別表第一の人文科学関係・社会科学関係・自然科学関係の三系列についてそれぞれ三科目十二単位以上合計九科目三十六単位以上を修得し、又外国語十二単位以上、保健体

育について講義及実技各二単位合計四単位を修得しなければならない。

第四十八条 専門教育科目に於いては必修科目を含めて七十二単位以上を修得しなければならない。

学生は最終年度に卒業論文を提出しなければならない。卒業論文の単位は専門科目の単位に加算する。

第四十九条 本大学に於ける卒業の要件としては学生は四ヶ年以上在学し、一般教育科目三十六単位以上、

外国語十二単位以上、保健体育四単位、専門科目七十二単位以上合計百二十四単位以上を修得するを要する。

第五十条 授業科目の単位は左の基準により算出する。

一 講義は一時間の講義に対して教室外に於ける二時間の準備のための学修を必要とすること
を考慮し毎週一時間十五週の講義を以って一単位とする。

一 外国語及演習は教室内二時間の授業に対し教室外一時間の準備のための学修を必要とする
ものとし毎週二時間十五週の授業及演習をもって一単位とする。

一 実験、実習（体育実技等）は学修がすべて実験室、実習場で行われるものとし、毎週三時
間十五週の実験、実習を以って一単位とする。

第五十一条 本大学体育学部に置く教職課程に於ての学科目、開講単位数、開設年次は別表第三による。

第五十二条 教職課程については体育学科では教科に関する専門科目を必修科目を含め十六単位以上、教職

に関する専門科目を必修六科目十六単位選択一科目二単位小計十九単位を修得しなければならない。

ない。

教員資格については法令の定めるところによる。

第三節 試験及称号

第五十三条 必修科目及選択科目各科目の単位修了の認定は試験による。

第五十四条 試験は学科目試験とし、年度或は各学期の終りに施行する。必要に応じて中間試験を行うことがある。

第五十五条 学生は当該年度に開設する学科目の内、必修科目の外選択科目より必要単位を選択し、開講後二週間以内に履修科目を申告しなければならない。学生は申告し所定の授業時数の三分の二以上を聴講した学科目に限り試験を受けることが出来る。休学中の者は試験を受ける資格がない。

第五十六条 試験は筆答、口述、レポート、論文等による。実施に当ってはこれ等の方法を併用することがある。

第五十七条 実験、実習に就ては、平素の成績で定めることがある。

第五十八条 各科目の成績は一期（十五週）終了の者はその期の成績をとり、年間を通した科目は前記^題成績と後期成績との平均点をとることを原則とする。

第五十九条 各科目成績について合格、不合格を決める。成績の評点を優、良、可、不可に分け、優は一〇〇点―八〇点、良は七九点―七〇点、可は六九点―六〇点、不可は五九点未滿^{以下}とし六〇点以上を合格とする。

第六十条 正当な理由がなくて試験を受けなかつた該科目の評点は零点とする。

第六十一条 各科目の試験に合格した者には、当該科目所定の単位を与える。

第六十二条 単位の取得が出来なかつた科目の受験には、改めて当該科目を所定の時数聴講又は実習しなければその資格は与えられない。

第六十三条 本大学々部に四年以上在学し、所定の授業科目を履修し、定められた単位数を取得した者は学士試験に合格したものと看做し卒業証書を与える。

第六十四条 本大学体育学部を卒業した者は体育学士と称することができる。

第四節 聴講生

第六十五条 本大学に開設された学科目中一科目又は教科目の聴講を願出するものがあるときは、学力を詮衡し聴講生として入学を許可することがある。

第六十六条 聴講生の入学資格は、左の各号の一に該当するものでなければならない。

一 高等学校を卒業した者

二 其他教授会で前号と同等以上の学力があると認められた者

第六十七条 聴講生でその履修学科目の聴講^(マ)終了者には聴講証明書を与える。聴講生に対しては試験を行わないことを原則とする。但し本人の請求があれば試験を行い、それに合格した者にはその学科目に関する修了証書を授与し、単位の取得を認定することができる。

第六十八条 本大学々部を卒業して聴講生となった者が、本大学々部在学中と通算して所定の単位を取得した場合、教員免許状授与を申請する資格を得ることができる。

第六十九条 聴講生に関し前条に規定した以外の事項は本大学々部一般の規定を準用する。

第五節 外国人学生

第七十条 外国人で本国の許可を得て、本大学に入学を志望するものがあるときは、教授会で詮衡した上入学を許可する。

第七十一条 外国人学生に関し、前条に規定した以外の事項は本大学一般の規定を適用する。

第六節 委託学生

第七十二条 他の大学、研究機関其他から特に本大学開設学科目の履修を目的として指導を委託された者が

あるときは、教授会の詮衡を経て委託学生として入学を許可することが出来る。

第七十三条 委託学生に関して特に規定あるもの、外は本大学々部一般の規定を適用する。

第七節 公開講座、通信教育

第七十四条 本大学々部は在学生のための授業課目以外に必要に応じ特別の講座を設け、これを一般大衆の

教養のために公開することがある。

第七十五条 公開講座に関する細目はこれを別に定める。

第七十六条 通信教育に関する細目はこれを別に定める。

第八節 賞罰

第七十七条 本大学々部の学生で、学術が優秀で操行の善良な者は教授会の推薦によって、特待生の待遇を

与える特待生となった者は、次学年の授業料を免除する。

第七十八条 本学を卒業した者で学力が優秀で操行が善良であり将来有望な者には教授会の詮衡を経て学資

を給与し、その研究を継続させ又は留学させることがある。

第七十九条 特待生で学業、研究を怠り若しくは不都合な行為があつた者は、直ちにその待遇及特権を停止する。

第八十条 本学々生で学則に違反し校内の風紀をみだし、校具を汚損し、又は学生の本分に反する行為の

あつた者はその軽重に従い懲戒を行う。

懲戒は謹慎・停学・放校の三種とする。

第九節 寄宿舎

第八十一条 本学に寄宿舎を置く。

寄宿舎に関する規定は別に定める。

附 則

第八十二条 本学則は昭和三十三年四月一日から施行する。

〔別表第一〕三 略

(内表紙)

「三、校地(図面添付)」

第三 校地(図面添付)

| 種 別 | 専 用 (坪) | 共 用 (坪) | 所 在 地 | 備 考 |
|---------|---------|---------|------------------------------------|------------------------------------|
| 校舎敷地 | 四、〇〇〇 | 二〇八八・三五 | 東京都世田谷区世田谷一丁目 一〇〇六 | 国士館短期大学 国士館高等学校 国士館中学校 } と共用 |
| 運動場(第二) | 一、〇八一 | 二二〇一 | 同 世田谷区若林町 二九三 東京都 南多摩郡鶴川村広袴 八四〇 | 同 右 国士館大学専用 |

| | | | |
|---|---|--------|---------|
| 合 | 計 | 一八、〇八一 | 四二八九・三五 |
|---|---|--------|---------|

(内表紙)
 「四、校舎等建物(図面添付)」

第四 校舎等建物(図面添付)

一、第一表

| 種別 | 専用 | 共用 | 計 | 建物様式 | 室数 | 備考 |
|-------|------------------|--------|----------|-----------------------|----|-------------|
| 五号館 | 坪(延) 一、三〇二・五〇 | | 一、三〇二・五〇 | 鉄筋コンクリート 四階建 | 三六 | 竣工予定年月日三月九日 |
| 体育館 | 三五九・六三 | | 三五九・六三 | 鉄筋コンクリート 一部二階建 平屋建 | 八 | |
| 武道場 | 二三五・二五 | | 二三五・二五 | 木造瓦葺 平屋建 | 六 | |
| 運動具庫 | 二三・五〇 | | 二三・五〇 | 木造スレート葺 平屋建 | 二 | |
| 学生控室 | 一五・〇〇 | | 一五・〇〇 | 木造トタン葺 平屋建 | 一 | |
| 学生便所 | 五・二〇 | | 五・二〇 | 木造トタン葺 平屋建 | 一 | |
| 計 | 一、九四一・〇八 | | 一、九四一・〇八 | | | |
| 三号館 | | 四五六・八〇 | 四五六・八〇 | 木造スレート葺 二階建 | 二七 | 国士館短期大学と共用 |
| 四号館 | | 九〇・〇七 | 九〇・〇七 | 木造アルミ葺 平屋建 | 三 | 同右 |
| 学生便所 | | 四・五〇 | 四・五〇 | 木造スレート葺 平屋建 | 一 | 同右 |
| 計 | | 五五一・三七 | 五五一・三七 | | | |
| 寄宿舎 | | 六六・〇〇 | 九二・七六 | 木造瓦葺 二階建 | 一六 | 当分使用しない |
| 館長公舎 | | ✓四四・七五 | ✓四四・七五 | 木造瓦葺 平家建 | 九 | 国士館短期大学と共用 |
| 学生集会室 | | ✓三六・五〇 | ✓三六・五〇 | 木造瓦葺 二階建 | 五 | 同右 |

二、第二表

| 五号館 | 建物種別 | 共用 | 専用 |
|---------|---------|-------|----------|
| 第一研究室 | 第一講事室 | 第二講事室 | 第三講事室 |
| 二〇・〇 | 二一・五 | 三一・五 | 二四・五 |
| 専任教員研究用 | 専任教員研究用 | 非常勤講師 | 学長公室兼会議用 |
| 二〇 | 二〇 | 一五 | 二〇 |
| 一一 | 一一 | 一一 | 三六 |
| | | | 一、三〇二・五 |
| | | | |

| 合計 | 小使室 | 守衛室 | 高校事務室 | 一號館 | 二號館 | 計 | 書庫 | 図書館 |
|----------|-------|----------|------------|-------------|-------------|-------------|--------------|---------------------|
| 一、九四一・〇八 | | | | | | | | |
| 一、二二二・〇〇 | 一一・八〇 | 二・七五 | 三三二・九五 | 二一・二五 | 九八・二五 | 二二三・四五 | 三三四・八八 | 一三四・六七 |
| 三、一六三・〇八 | 一一・八〇 | 二・七五 | 三三二・九五 | 二一・二五 | 九八・二五 | 二二三・四五 | 三三四・八八 | 一三四・六七 |
| | | 木造瓦葺 平家建 | 木造トタン葺 平家建 | 木造スレート葺 平家建 | 木造スレート葺 平家建 | 木造アルミ葺 二階建 | 鉄筋コンクリート 平家建 | 木造スレート葺 平家建 |
| | | | | | | | | |
| | | | | 三 | 六 | 九 | 一 | 二 |
| | | 同右 | 同右 | 同右 | 同右 | と共用 | 同右 | 同右 |
| | | | | | | 国士館高等学校、中学校 | | 国士館短期大学、高等学校、中学校と共用 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|--------|--------|----------|----------|--------|------|-------|----------|-------|------|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 二階廊下 | 二階ホール | 二階洗面所 | 二階便所 | 第五教室 | 第四教室 | 第三教室 | 第二教室 | 第一教室 | 物理学実験室 | 生物学実験室 | 体育測定学実験室 | 体育心理学実験室 | 生理学実験室 | 一階廊下 | 一階ホール | 一階階段及ホール | 一階洗面所 | 一階便所 | 湯沸室 | 宿直室 | ポンプ電気室 | 第七研究室 | 第六研究室 | 第五研究室 | 第四研究室 | 第三研究室 | 第二研究室 |
| 三六・五 | 二一・〇 | 三〇 | 七〇 | 三一・五 | 三一・五 | 二四・五 | 二四・五 | 三一・五 | 三一・五 | 二四・五 | 三一・五 | 二四・五 | 二四・五 | 三六・五 | 三一・五 | 二一・五 | 三〇 | 七〇 | 五〇 | 五〇 | 一四・五 | 一二・五 | 一二・五 | 一二・五 | 一二・五 | 一六・五 | 一五・〇 |
| | | | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 講 | | 〃 | 〃 | | 実 | | | | | | | | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 |
| | | | | | | | | 義 | | | | | 験 | | | | | | | | | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 | 員 |
| | | | | | | | | 用 | | | | | 用 | | | | | | | | | 用 | 用 | 用 | 用 | 用 | 用 |
| | | | | 六〇 | 六〇 | 五〇 | 五〇 | 六〇 | 六〇 | 五〇 | 六〇 | 五〇 | 五〇 | | | | | | | | | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| | | | | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | | | | | | | | | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|-----|------|-------|-------|------|--------|--------|--------|--------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 体育館専用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 体育場 | 塔 | 四階廊下 | 四階ホール | 四階洗面所 | 四階便所 | 第二学生控室 | 第一学生控室 | 二番合併教室 | 一番合併教室 | 第十五教室 | 三階廊下 | 三階ホール | 三階洗面所 | 三階便所 | 第十四教室 | 第十三教室 | 第十二教室 | 第十一教室 | 第九教室 | 第八教室 | 第七教室 | 第六教室 | |
| 八四六・二一 二五六・四三 三七・一三 | 八・五 | 三六・五 | 二一・五 | 三〇 | 七〇 | 五六・〇 | 五六・〇 | 五六・〇 | 五六・〇 | 三一・五 | 三六・五 | 二一・五 | 三〇 | 七〇 | 二四・五 | 三一・五 | 三一・五 | 三一・五 | 二四・五 | 二四・五 | 三一・五 | 三一・五 | 二四・五 |
| 体育実習用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 四〇〇 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一 八 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 二八六・七八 三五九・六三 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 学生便所専用 | 学生控室専用 | 運動具庫専用 | 武道場専用 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--|--|--------|-------|------------|-------|----------|-----|---------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学生控室 | 学生控室 | 運動具庫 | 剣道場 柔道場 格闘室 物研置 玄物 便所の その他 | 剣道場 柔道場 格闘室 物研置 玄物 便所の その他 | 男子更衣室 | 管理保健室 | 指導員室兼研究室 | 用具室 | 女子更衣室 | 研究室 | 体育学部図書室 | その他 | 一〇〇〇〇 | 九六〇〇〇 | 七〇〇〇〇 | 三二・二五 | 二七・三五 | 二六・〇九 | 一八・六五 | 一一・二五 |
| 学生休憩用 | 学生控室 | 運動具格納用 | 剣道場 柔道場 格闘室 物研置 玄物 便所の その他 | 剣道場 柔道場 格闘室 物研置 玄物 便所の その他 | 更衣及休憩用 | 管理保健用 | 指導員控室用・研究用 | 用具格納用 | 女子更衣及休憩用 | 研究用 | 図書閲覧用 | その他 | 一〇〇〇 | 二〇〇〇 | 一〇〇〇 | 三〇 | 二〇 | 一〇 | 一〇 | 四〇 |
| 一 | 二 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 五・二〇 | 一五・〇〇 | 二三・五〇 | 一三三・五二五 | 一三三・五二五 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | 三 | 館 共 用 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 号 | | | | | | | | |
| 応 | 会 | 教 | 学 | 暗 | 標 | 準 | 特 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | 便 | | | | | |
| 接 | 議 | 員 | 長 | | 本 | 備 | 別 | 番 | 番 | 番 | 番 | 番 | 番 | 番 | 番 | 所 | | | | | |
| 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 室 | 五 | | | | | |
| 二 | 一 | 一 | 一 | 三 | 一 | 一 | 二 | 二 | 六 | 三 | 九 | 二 | 一 | 五 | 二 | 二 | 二 | 六 | 五 | 一 | 二 |
| 六 | 八 | 二 | 二 | 九 | 四 | 三 | 六 | 〇 | 六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 六 | 二 | 六 | 〇 |
| 四 | 〇 | 〇 | 〇 | 六 | 〇 | 〇 | 八 | 四 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 八 | 〇 | 〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 應 | 会 | 教 | 学 | 暗 | 標 | 準 | 講 | | | | | | | | | | | 講 | 学 | |
| | | 員 | 長 | | | | | 義 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | 生 | |
| | 接 | 議 | 控 | 公 | 室 | 本 | 備 | 実 | | | | | | | | | | | 義 | 室 | |
| | 室 | 室 | | | | | | 験 | | | | | | | | | | | | 附 | |
| | 用 | 用 | 用 | 用 | 用 | 用 | 用 | 用 | | | | | | | | | | | 用 | 属 | |
| | | 一 | 一 | 一 | 六 | 六 | 六 | 五 | 七 | 五 | 四 | 五 | 五 | 五 | 五 | | | | 四 | | |
| | 六 | 〇 | 〇 | 〇 | 六 | 六 | 六 | 〇 | 〇 | 五 | 四 | 五 | 五 | 五 | 五 | | | | 〇 | 二 | |
| | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | | | | 一 | 七 | |
| | | | | | | | | | | | | | 五 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 四 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 五 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 七 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 四 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 四 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | |

| 寄 宿 舎 共 用 | 学 生 便 所 共 用 | 四 号 館 共 用 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|----------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------------|---|-------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|
| 舎 監 室 | 便 所 | そ の 他 室 | 合 併 教 室 | 廊 下 の 他 | 便 所 | 物 置 室 | 小 使 室 | 第 六 研 究 室 | 第 五 研 究 室 | 第 四 研 究 室 | 第 三 研 究 室 | 第 二 研 究 室 | 第 一 研 究 室 | 事 務 室 |
| 一・五〇 | 四・五〇 | 二五・三三 | 二一・三・六四 六四・七四 八三・五八 | 一・二・三 〇・〇・〇 | 四・〇 五・九 | 二・八 六・四 | 三・〇 三・〇 三・〇 | 九・九 六・〇 六・〇 | 一・九 二・〇 二・〇 | 一・二 二・〇 二・〇 | 一・二 二・〇 二・〇 | 一・二 二・〇 二・〇 | 三・九 九・六 | 一・二 〇・〇 |
| 舎 監 用 | 学 生 用 | 合 併 講 義 用 | 四〇〇 | 便 物 宿 小 研 事 務 | | | | | | | | | | |
| 一 二 六 | 一 | 二 | 一 | 三 | 品 格 納 所 用 用 用 用 用 用 用 用 用 | | | | | | | | | |
| 三・〇〇 | 九二・七六 | 四・五〇 | 九〇・〇七 | 二 九七・二・三一 | 六・〇〇 | | | | | | | | | |
| 当分使用しない | | | | | | | | | | | | | | |

| 二 号 館 共用 | 書 庫 共用 | 図書室 共用 | 学生集会室 共用 | 館長公舎 共用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|------------------|--|------------------|---|------------------|-----------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|-----------------------|------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 教 員 兼 議 室 | 書 庫 | 廊下 その他 | 第二 第一 医務 職 員 室 | 準 備 室 | 第五 第四 第三 第二 第一 特別 閱覽 室 | 司 書 長 室 | 閱 書 務 室 | | | 廊 下 そ の 他 | 学 生 用 室 | | | | | | | | | | | | | |
| 一 六 〇 〇 | 一 六 二 〇 | 一 三 六 七 | 一 〇 〇 〇 | 一 二 〇 〇 | 二 〇 〇 | 六 〇 〇 | 六 〇 〇 | 六 〇 〇 | 六 〇 〇 | 五 〇 〇 | 六 〇 〇 | 六 〇 〇 | 三 六 〇 〇 | | | 三 四 一 六 | 六 五 〇 | 三 五 〇 | 四 五 〇 | 二 五 五 | 三 〇 〇 | 二 〇 〇 | | |
| 教 員 控 室 用 | 図 書 格 納 用 | | 医 療 用 | 準 備 用 | | | 図 書 閱 覧 用 | 事 務 用 | 図 書 閱 覧 用 | 学 生 集 会 用 | 学 長 住 宅 用 | | | | | | | | | | | 学 生 用 | | |
| 一 〇 一 | | | 二 二 | | | | | | 五 五 | | | | | | | | | | | | | | 学 生 用 | |
| 一 一 九 | 一 一 | | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 一 | 一 二 | 五 九 | | | | | | | | | | 学 生 用 |
| 二 一 三 四 五 | 一 六 二 〇 | | | | | | | | | | | | 一 三 四 六 七 | 三 六 五 〇 | 四 四 七 五 | | | | | | | | | 学 生 用 |
| | | | 個人用椅子五五 座席数 気 窓による自然換 気 換気方法 覧に充分である 七灯にて夜間閱 覧に充分である 採光 三六坪二〇〇W 閱覧方法開架式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 合 | 共 | 専 | 守 | 小 | | 高 | | 一 | |
|----------|----------|----------|----|-------|-------------|-----------------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 計 | 計 | 計 | 衛 | 使 | | 校 | | 号 | |
| | | | 室 | 室 | | 事 | | 館 | |
| | | | 共用 | 共用 | | 務 | | 共用 | |
| | | | | | | 室 | | | |
| | | | | | 廊 一 二 一 | 廊 | 演 教 四 三 二 一 | 玄 | 教 教 教 教 教 教 |
| | | | | | 下 所 の 他 | 下 所 の 他 | 員 番 番 番 番 | 関 廊 下 所 の 他 | 室 室 室 室 室 室 |
| | | | | | | | 習 控 教 教 教 教 | | 7 6 5 4 3 2 1 |
| | | | | | | | | | |
| 三、一六三・〇八 | 一、二二二・〇〇 | 一、九四一・〇八 | | 一〇〇・五 | 六〇〇 四〇〇 七五〇 | 二四・五〇〇 | 八〇〇 五二五 一〇五〇 一四〇〇 一六〇〇 二〇〇〇 | 七一九二 | 六二〇 一六〇〇 一六〇〇 一六〇〇 二〇〇〇 二〇〇〇 一六〇〇 |
| | | | 守 | 小 | 宿 庶 学 | 演 教 | 授 | | 授 |
| | | | 衛 | 使 | 務 生 | 員 員 員 | 業 | 〃 〃 〃 〃 〃 〃 | 業 |
| | | | 詰 | 所 | 直 会 計 | 習 控 室 | | | |
| | | | 用 | 用 | 用 用 用 | 用 用 | 用 | | |
| | | | | 一 | 二 五 五 五 | 一 五 五 | 三 〇 〇 四 〇 〇 五 〇 〇 六 〇 〇 | 一 〇 〇 四 〇 〇 四 〇 〇 五 〇 〇 五 〇 〇 | |
| | | | | 一 | 一 一 一 三 | 一 一 一 一 一 一 一 六 | | 一 | |
| 三、一六三・〇八 | 一、二二二・〇〇 | 一、九四一・〇八 | | 一〇〇・五 | | | | | 九八二五 |
| | | | | | | | | | |

〔内表紙〕
「五、図書、標本、機械器具等施設概要」

第五、図書標本機械器具等設備

一ノ一 図書

| 種別 | 専用 | 共用 | 計 | 内 | | 備考 |
|--------|--------|-------------------|--------|---------|--------|---------|
| | | | | 内国書 | 外国書 | |
| 一般教育図書 | | | | | | |
| 人文科学関係 | 二、二五四 | 八三六 | 三、〇九〇 | } 七、四七二 | } 六〇九 | 短期大学と共用 |
| 社会科学関係 | 二、四四七 | 六八四 | 三、一三一 | | | |
| 自然科学関係 | 一、一五二 | 七〇八 | 一、八六〇 | | | |
| 外国語計 | 五、八五三 | 二、二二八 | 八、〇八一 | 七、四七二 | 六〇九 | |
| 英語 | 一、二一八 | 六〇七 | 一、八二五 | 一、五〇一 | 三二四 | |
| 独逸語 | 一、一五五 | | 一、一五五 | 五一三 | 六四二 | |
| その他 | 一九五 | | 一九五 | 一四三 | 五二 | |
| 保健体育計 | 二、五六八 | 六〇七 | 三、一七五 | 二、一五七 | 一、〇一八 | |
| 合計 | 三〇六 | 三〇六 | 六一二 | 六一二 | | |
| 専門、図書 | 八、七二七 | 三、一四一 | 一一、八六八 | 一〇、二四一 | 一、六二七 | |
| 体育学部 | 五、三二八 | (国文科専用) 一八、五一九 | 二九、〇六三 | 四、九五六 | 三七二 | |
| 体育学科 | | (経済科専用) 五、二一六 | 二九、〇六三 | 一〇、八五六 | 七、六六三 | |
| 計 | 五、三二八 | 二二、七三五 | 二九、〇六三 | 三、九五〇 | 一、二六六 | |
| 総計 | 一四、〇五五 | 二六、八七六 | 四〇、九三一 | 三〇、一九八 | 一〇、三一〇 | |

| | | | | | | |
|----------------------|-----|----------------------------------|-----|-----|----|--|
| 学術雑誌 体育学部 体育学科 | 三五種 | (国文科専用) 一六種 (経済科専用) 三七種 | 九八種 | 九〇種 | 八種 | |
|----------------------|-----|----------------------------------|-----|-----|----|--|

〔二ノ二 学術雑誌目録 略〕

二ノ一 標本

| | | | | |
|------|------|------|------|------------|
| 種別 | 専用 | 共用 | 計 | 備考 |
| 一般教育 | 二〇〇点 | 二九五点 | 四九五点 | 国士館短期大学と共用 |
| 専門教育 | 一一〇点 | | 一一〇点 | |
| 体育学部 | 三二〇点 | 二九五点 | 六〇五点 | |
| 計 | | | | |

〔二ノ二 標本目録 略〕

三ノ一 機械器具

| | | | | |
|------|-------|-----|-------|------------|
| 種別 | 専用 | 共用 | 計 | 備考 |
| 一般教育 | 二六六點 | 八五點 | 三五一點 | 国士館短期大学と共用 |
| 専門教育 | 一、〇五〇 | 九〇 | 一、一四〇 | 国士館短期大学と共用 |
| 体育学部 | 一、三一六 | 一七五 | 一、四九一 | 国士館短期大学と共用 |
| 計 | | | | |

〔三ノ二 機械器具目録 略〕

(内表紙)
 「六、学部及び学科別学科目又は講座」

第六 学部及学科別学科目

| 体 育 学 部 | | | | 学 部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|----|-------------|---|--------|--------|-------------|----------------------------|--------|--------|--------|--------|----------------------------|--------------------------------------|--------|-------------|--------|----------------------------|----------------------------|-------------|---|---|--------|------------------|--------|--------|-------------|
| 体 育 学 科 | | | | 学 科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保 健 体 育 義 | 計 | 外 國 語 | 計 | 統 計 | 数 学 | 生 物 学 | 自 然 学 科 関 係 | 教 育 | 経 済 | 心 理 | 法 学 | 社 会 学 科 関 係 | 史 学 | 文 学 | 倫 理 学 | 哲 学 | 一 般 教 育 科 目 | 人 文 学 科 関 係 | 学 科 目 | | | 年 次 | 及 単 位 | 数 計 | 備 考 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 独 逸 語 |
| 一 | 六 | 二 | 四 | 二 | 四 | 四 | 四 | | | | | | | 四 | 四 | | | | | | | | 第 一 年 次 | | | |
| 一 | 六 | 二 | 四 | 二 | 〇 | 四 | | | | | | | | 四 | 四 | | 四 | | | | | | 第 二 年 次 | | | |
| | | 四 | 二 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 第 三 年 次 | | | |
| | | 四 | 二 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 第 四 年 次 | | | |
| 二 | 二〇 | 一 八 | 二 | 四 四 | 四 | 四 | | | | | | | 日 本 国 憲 法 を 含 む | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | | 計 | | | |

部 学 育 体

科 学 育 体

| | | | | | | | | | | | | | | | 専 | 計 | 実 技 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---|--------|-----------------------|-----------------------|-------------|--------------------------------------|----------------------------|-------------|-----------------------|----------------------------|-------------|--|--|--|--|---|---|---|
| 体 育 方 法 第 五 （ 水 泳 ） | 体 育 方 法 第 四 （ 格 技 ） | 体 育 方 法 第 三 （ 球 技 ） | 体 育 方 法 第 二 （ 體 操 ） | 体 育 方 法 第 一 （ 體 操 ） | 体 育 測 定 学 实 験 | 体 育 心 理 学 实 験 | 解 剖 及 生 理 学 实 験 | 救 急 处 置 及 看 護 法 | 学 校 保 健 | 健 康 教 育 論 | 医 学 概 論 | 体 育 社 会 学 | 体 育 測 定 学 | 体 育 方 法 学 | 体 育 管 理 学 | | | 体 育 心 理 学 | 体 育 原 理 学 | 発 育 論 | 個 人 及 公 衆 衛 生 論 | 細 菌 及 免 疫 学 | 栄 養 学 | 運 動 生 理 学 | 解 剖 及 生 理 学 | 門 科 目 | | | | | | | |
| 一 | 二 | 一 | 二 | 一 | | | | | | | | | | 四 | | | 四 | | | | | | | | | | | | | | | 二 | 一 |
| | 二 | 二 | 一 | 二 | | | | | 四 | | | | | | | | 四 | | 四 | | | | | | | | | | | | | 二 | 一 |
| | 一 | 二 | 二 | 二 | 二 | | 四 | | | | 四 | 四 | 四 | | | | | | | | 四 | 四 | 四 | | | | | | | | | | |
| | | 一 | 一 | | | 二 | 二 | | | 二 | 二 | 四 | | | | | | 二 | | 四 | | | | | | | | | | | | | |
| 一 | 五 | 六 | 六 | 五 | 二 | 二 | 二 | 四 | 四 | 二 | 二 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 二 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 六 | | | | | 四 | 二 | |

| 部 学 育 体 | | 科 学 育 体 | |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 合 計 | 計 | 計 | 計 |
| 教 育 実 習 | 教 育 実 習 | 教 育 実 習 | 教 育 実 習 |
| 保 健 体 育 科 教 育 法 | 保 健 体 育 科 教 育 法 | 保 健 体 育 科 教 育 法 | 保 健 体 育 科 教 育 法 |
| 教 育 史 | 教 育 史 | 教 育 史 | 教 育 史 |
| 青 年 心 理 学 | 青 年 心 理 学 | 青 年 心 理 学 | 青 年 心 理 学 |
| 教 育 心 理 学 | 教 育 心 理 学 | 教 育 心 理 学 | 教 育 心 理 学 |
| 教 育 原 理 | 教 育 原 理 | 教 育 原 理 | 教 育 原 理 |
| 教 職 関 係 専 門 科 目 | 教 職 関 係 専 門 科 目 | 教 職 関 係 専 門 科 目 | 教 職 関 係 専 門 科 目 |
| 卒 業 論 文 | 卒 業 論 文 | 卒 業 論 文 | 卒 業 論 文 |
| 体 育 方 法 第 六 (ス キ ー) | 体 育 方 法 第 六 (ス キ ー) | 体 育 方 法 第 六 (ス キ ー) | 体 育 方 法 第 六 (ス キ ー) |
| 体 育 方 法 第 七 (リ シ ョ ン) | 体 育 方 法 第 七 (リ シ ョ ン) | 体 育 方 法 第 七 (リ シ ョ ン) | 体 育 方 法 第 七 (リ シ ョ ン) |
| 体 育 方 法 第 八 (専 攻) | 体 育 方 法 第 八 (専 攻) | 体 育 方 法 第 八 (専 攻) | 体 育 方 法 第 八 (専 攻) |
| 五五 | 四 | 四 | 四 |
| 五八 | 四 | 四 | 一 |
| 五三 | 五 | 三 | 一 |
| 四二 | 五 | 三 | 四 |
| 二〇九 | 一九 | 三 | 一 |
| | | | |

(内表紙)

「七、修業年限、履修方法及び学士号」

第七、修業年限、履修方法及び学士号

一、修業年限

修業年限は四ヶ年とする。在学年限は八ヶ年を超えることはできないものとする。

二、履修方法

1. 体育学部体育学科において開設する学科目は、一般教育科目、外国語、保健体育科目、専門科目並に

教職科目の五つに分ち、又夫々の学科目を必修科目と選択科目とに分ける。

2. 学生は右の学科目凡てを履修しなければならない。但し、教職科目は教員免許状取得希望者に限り履修するものとする。

3. 修業年限四ヶ年の内、第一年次、第二年次には一般教育科目、外国語、保健体育科目を主として履修するものとする。尚第一年次から専門科目の一部及教職科目の一部を加え履修せしめる。

4. 一般教育科目の履修は第二年次終りに於て完了するものとする。

5. 外国語は第一年次、第二年次、第三年次、第四年次の四ヶ年に亘り履修するものとする。

6. 第三年次、第四年次に於ては、主として専門科目及教職科目を履修するものとする。

7. 専門科目中、体育方法（実技）は第一年次より第四年次に亘り履修するものとする。

8. 学生は毎学年度始めに当該年度に開設する学科目の中、必修科目の外、選択科目より必要単位を選択し、此れを届出て、履修するものとする。

9. 一科目の課程を修了したものには次の基準により単位を与える。

(1) 講義は一時間の講義に対して教室外における二時間の準備のための学習を必要とすることを考

〔字カスレ、以下説メズ〕

(3) 実験、実習、実技等は学習がすべて実験室、実習場で行われるものとし、毎週三時間十五週の実

験、実習、実技を以て一単位とする。

10. 単位履修の認定は主として試験によるものとし、その他研究報告、論文等の提出を以てする。

11. 卒業要件は次の通りである。

(1) 四ヶ年以上在学すること。

(2) 左の各項に示した単位数以上を取得すること。

イ. 一般教育科目においては人文、社会、自然の三系列の関係科目にわたり、必修科目を含めそれぞれ三科目十二単位以上合計九科目三十六単位以上を取得しなければならない。

ロ. 外国語は第一外国語八単位以上、第二外国語四単位以上を取得しなければならない。

ハ. 保健体育四単位を取得しなければならない。

ニ. 専門科目においては必修科目を含め七十二単位以上を取得しなければならない。

ホ. 学生は第四年次に於て卒業論文を提出しなければならない。卒業論文の単位は専門科目の単位に
加算する。

(3) 卒業資格としての最低要求取得単位数は前各項による合計百二十四単位以上である。

12. 教員免許状の授与を希望する者は、前項履修単位の外、教職科目について必修科目を含め十六単位以上を取得しなければならない。

三、学士号

1. 本大学学部_レに四年以上在学し、所定の授業科目を履修し定められた単位数を取得したものは学士試験に合格したものとみなし、卒業証書を与える。

2. 本大学体育学部を卒業したものは、体育学士と称することができる。

四、内訳

〔前掲「学部及学科別学科目」に同じ〕

(内表紙)

〔八、学部及び学科別学生定員〕

第八 学部及学科別学生定員

一、学部及学科別学生入学定員

体育学部 体育学科 一〇〇名

二、学部及学科別学生総定員

体育学部 体育学科 四〇〇名

〔内表紙〕
「九、職員組織」

第九 職員組織

一、職員総括表

| 合 | そ | 事 | 技 | 助 | 計 | 講 | 助 | 教 | 学 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計 | の | 務 | 術 | 手 | 師 | 授 | 授 | 員 | 長 | |
| 四 | 一 | | | 三 | 八 | 一 | | | | 次 |
| 六 | 二 | 四 | | 六 | 三 | 五 | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 一 |
| | | | | | | | | | | 専 |
| | | | | | | | | | | 任 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 四 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 四 | 一 | | | 三 | 八 | 一 | | | | 次 |
| 七 | 二 | 四 | | 六 | 三 | 五 | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 一 |
| | | | | | | | | | | 専 |
| | | | | | | | | | | 任 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 四 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 七 | | | | 七 | 二 | 一 | | | | 次 |
| | | | | | | | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 一 |
| | | | | | | | | | | 専 |
| | | | | | | | | | | 任 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 四 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 八 | | | | 八 | 二 | 一 | | | | 次 |
| | | | | | | | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 一 |
| | | | | | | | | | | 専 |
| | | | | | | | | | | 任 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 四 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 五 | | | | 五 | 五 | | | | | 次 |
| | | | | | | | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 四 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 三 | | | | 三 | 二 | 一 | | | | 次 |
| | | | | | | | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 四 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 二 | | | | 二 | 二 | | | | | 次 |
| | | | | | | | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 一 | | | | 一 | 一 | 一 | | | | 次 |
| | | | | | | | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |
| 六 | 一 | | | 四 | 二 | 二 | | | | 次 |
| 七 | 二 | 四 | | 七 | 一 | 四 | | | | 年 |
| | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 二 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 三 |
| | | | | | | | | | | 第 |
| | | | | | | | | | | 計 |

〔二、学部及学科別教員 略〕

三、学長並びに学部及び学科別教員予定表

| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|-------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------|--------------------------------|--------------------------|----------------------|--|
| 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 号 | 番 |
| 授 助教 | 授 助教 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 学 長 | 名 職 |
| 一般教育専任 | 一般教育専任 | 一般教育専任 | 一般教育専任 | 一般教育専任 | 一般教育専任 | 専任 | の 専 門 科 目 別 講 座 |
| 法学 | 文学 | 数学 | 心理学 | 倫理学 | | | の 専 門 科 目 別 講 座 |
| 昭和三〇・三 早稲田大学大学院法学研究科 | 昭和二五・九 早稲田大学文学専攻(国文学) | 昭和二七・七 早稲田大学文学部 | 昭和二二・二 早稲田大学文学部 | 昭和二八・三 早稲田大学文学部 | 昭和二四・六 早稲田大学政治経済学 | 昭和二八・三 早稲田大学政治経済学 | 最終卒業学校 学部、学科名 及び卒業年月 |
| 士修学法 | 論 著書一 論文二 | 士博学理 論 著書四 論文一〇 その他 | 著書八 | 論 著書一 論文四 | 論 著書一 論文四 | 論 著書一 論文四 | 号 称 位 学 数 学 術 論 文 |
| 〇・五一 四三三 | 〇・五一 四三三 | 〇・〇四 四三三 | 五 四三三 | 九 四三三 | | | 歴 教 年 予 採 月 定 用 |
| 15,000 | 25,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 40,000 | | 給 本 基 額 月 籍 本 籍 国 |
| 京東 男 | 京東 男 | 葉千 男 | 岡静 男 | 島広 男 | 京東 男 | | 別 性 |
| 大正六・六・二八 柴田梵天 | 大正八・四・二七 宮沢林直 | 明治一九・三・二五 柴田寛 | 明治二六・二・二七 増田栄 | 明治三二・二・一〇・一五 佐藤嘉祐 | 明治二三・二・二二・二〇 柴田徳次郎 | | 生 氏 年 月 日 名 |
| 講師・法学 昭和三〇・七 | 助教授・国文学 昭和二四・二・一一 | 千葉大学 昭和二四・教授・ 数学 | | 国士館短期大学 昭和三〇・六・二三 教授・倫理学 | 国士館短期大学 昭和二七・二〇 学長 | | 備 申 請 学 校 考 職 審 査 年 月 日 名 名 学 科 目 日 調 査 目 頁 数 |
| 20~23 | 16~19 | 11~15 | 8~10 | 4~7 | 1~3 | | |

| | | | | | |
|-----------------|--------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------|---|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 |
| 講師 | 講師 | 講師 | 教授 | 教授 | 講師 |
| 一般教育兼任 | 一般教育兼任 | 一般教育兼任 | 一般教育兼任 | 一般教育兼任 | 一般教育専任 |
| 局長 養成所 講師 | 総理府統計局 統計職員 教授 | 青山学院大学 経済学部 教授 | 東京経済大学 学助教授 歴史 | 国士館大学 体育学部 教職科目 教育原理 教育史 | 国士館短期大学 教授 哲学 |
| 統計学 | 経済学 | 史学 | 教育学 | 哲学 | 生物学 |
| 京都大学 経済学部 昭和二・三 | 東京帝国大学 経済学部 経済学 昭和五・三 | 東京帝国大学 文学部 西洋史学 昭和一〇・三・三一 | 早稲田大学 文学部 哲学部 哲学 昭和四一・七 | 東京帝国大学 文学部 哲学部 昭和元・三・三一 | 東京外国語大学 校専修科 ドイツ語科 明治四五・三 ドイツ皇帝研究所 ゴットル博士につき学習 (二年六ヶ月) 大正一一・三・三一 |
| 著書三 論文六 | 著書一五 | 著書二 論文一 | 著書一〇 論文四 | 著書一 論文四 | 著書ナシ 論文二〇 |
| 昭和四三三 | 昭和四三三 | 昭和四三三 | 昭和四三三 | 昭和四三三 | 昭和四三三 |
| 3,000 | 3,000 | 3,000 | | | 15,000 |
| 岡福 | 京東 | 京東 | 京東 | 京東 | 山岡 |
| 男 | 男 | 男 | 男 | 男 | 男 |
| 中村浩 大正二・五・一四 | 日下藤吾 明治四一・二・二六 | 神保規一 明治四五・二・一〇 | 小沢恒一 明治一六・六・六 | 太田定康 明治三三・八・三 | 影山藤作 明治八・二・二六 |
| | 国士館短期大学 講師、経済学 昭和三〇・六・二七 | 東京経済大学 昭和二五・四 助教授、歴史 | 早稲田大学 昭和二四・四 教授、教育学 | 至徳短期大学 昭和二四・一二・二四 教授・哲学 | 国士館短期大学 昭和三〇・二一 講師、生物学 |
| 44~47 | 40~43 | 36~39 | 33~35 | 29~32 | 24~28 |

| | | | | | | |
|---|--|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|
| ○ | ○ | | | | ○ | ○ |
| 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 |
| 授助 教 | 教授 | 教授 | 講師 | 教授 | 教授 | 教授 |
| 保健体育 兼任 | 保健体育 兼任 | 保健体育 専任 | 科目 外国語 兼任 | 科目 外国語 兼任 | 科目 外国語 専任 | 科目 外国語 専任 |
| 国士館大学 体育学部助 教授(球技) | 国士館大学 体育学部教 授 体育方法 (陸上競技) | | 日本大学助 教授 独逸語 | 国士館短期 大学教授 英語 | | |
| 実技 | 講義及実 技 | 保健体育 講義及実 技 | 独逸語 | 英語 | 英語 | 英語 |
| 東京体育専門 学校本科体操 科 昭和二三・ 一五 | 東京高等師範 学校体育科甲 組 昭和一〇・三・ 一五 | 日本体育会体 操学校高等科 昭和五・三 | 東京帝国大学 文学部独逸科 昭和一一・三 | 東京帝国大学 文学部英文科 大正六・七 | 米國パーク レー市太平洋 宗教大学院 昭和六・五・七 | 早稲田大学英 文学科 明治四二・三 |
| | | | | | 士博学文 | |
| 著書一 論文二 | 著書一 論文五 | | 著書六 | 著書三 | 著書五 論文一 その他 | 著書二二 論文六 その他 |
| ○・八 | ○・六 | ○・五一 | ○・〇一 | 八・〇三 | ○・七 | ○・九二 |
| 四三三 昭和 | 四三三 昭和 | 四三三 昭和 | 四三三 昭和 | 四三三 昭和 | 四三三 昭和 | 四三三 昭和 |
| | | 30,000 | 3,000 | | 30,000 | 30,000 |
| 京東 男 | 新潟 男 | 知愛 男 | 島徳 男 | 京東 男 | 京東 男 | 京東 男 |
| 石田啓 大正一一・七・二 | 金子藤吉 明治四四・四・二四 | 加藤孝吾 明治三八・三・三 | 満足卓 明治四三・九・四 | 根本剛 明治二六・二・一四 | 小辻節三 明治三二・二・三三 | 市川又彦 明治一九・二・二 |
| 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・ 一五助教授・体育 方法(球技) | 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・ 一五 教授(陸上競技) | 日本体育大学 昭和二四・三・二五 教授・体育 | 日本大学 昭和二二・二・二 助教授・独逸語 | 国士館短期大学 昭和二七・二〇 教授・英語 | 関東学院大学 昭和二四、教授、 基督教 | 早稲田大学 昭和二四、教授、 英語・英文学 |
| 73~76 | 69~72 | 65~68 | 61~64 | 57~60 | 53~56 | 48~52 |

| | | | | | | |
|------------------------------|--------------------------------------|--|--|---------------------------------|---|--|
| | | ○ | | | | ○ |
| 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 |
| 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 講師 |
| 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 保健体育兼任 |
| 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | |
| | | | | | | 国士館大学 体育学部講 師 体育方法 (体操) |
| 解剖及生 理学 同実験実 習 | 個人及公 衆衛生論 栄養学 | 体育方法 学 （陸上競 技） | 体育方法 （格技） | 体育方法 （格技） | 体育原理 運動生理 学 体育管理 学 | 実技 |
| 慈恵会医科大 学部 昭和一六・一一 | 東京帝国大 学 大正二・一二 | 東京高等師範 学校体育科甲 組 昭和一〇・三・ 一五 | 東京高等師範 学校体操専修 科 大正五・三・五 | 東京高等師範 学校体育科 大正一五・三 | 東京高等師範 学校体操専修 科 大正五・三・五 | 東京体育専門 学校本科体操 科 昭和二〇・九・ 二五 |
| 医学博士 | 医学博士 | | | | | |
| 著書ナシ 論文五 | 著書二 論文多数 | 著書一 論文五 | 著書四 | | 著書三 論文三 | |
| 〇・二 四三三 | 〇・四一 四三三 | 〇・六 四三三 | 七・七二 四三三 | 〇・八 四三三 | 九・八二 四三三 | 〇・四 四三三 |
| 30,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | 30,000 | |
| 京東 | 京東 | 潟新 | 形山 | 根島 | 岡福 | 島福 |
| 男 | 男 | 男 | 男 | 男 | 男 | 男 |
| 佐藤英夫 大正六・一・一 | 小金井良一 明治二三・八・六 | 金子藤吉 明治四四・四・ 二四 | 會田彦一 明治二六・四・ 一一 | 大野操一郎 明治三四・二・ 二五 | 岡部平太 明治二四・九・ 一〇 | 鈴木八郎 大正一三・六・二六 |
| 国士館短期大学 昭和三〇・一一 教授・解剖学 | 国士館短期大学 昭和三〇・一一 教授・衛生学・栄 養学 | 国士館短期大学 昭和三〇・一〇・ 一五教授（陸上競 技） | 国士館短期大学 昭和三〇・一〇・ 一五教授・体育方 法（格技） | 国士館短期大学 昭和三〇・一二教 授体育法（格技） | 国士館短期大学 昭和三〇・六・二七 教授・体育 国士館短期大学 昭和三〇・一〇・ 一五教授・体育原 理・体育史・体育運 動学・運動生理学 | 福岡学芸大学 昭和三〇・六・二七 教授・体育 国士館短期大学 昭和三〇・一〇・ 一五講師・体育方 法（体操） |
| 97~100 | 93~96 | 69~72 | 89~92 | 85~88 | 81~84 | 77~80 |

| | | ○ | | ○ | ○ |
|--------------|--|--|--|-----------------------------|------------------------|
| 32 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 |
| 講師 | 講師 | 授 助教 | 授 助教 | 教授 | 教授 |
| 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 |
| 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| (リクリエーション) | 体育方法 | 解剖及生理学 同実験実習 | 体育測定 学 (球技) | 体育史 体育方法 (体操) | 体育原理 体育方法 (球技) |
| 部 二五・三・一五 | 学校 昭和二二・三・一五 中央大学法学部 | 昭和三〇・三 東京慈恵会医科大学 | 一部 昭和二〇・一〇 東京教育大学体育学部 | 東京高等師範学校 昭和二二・三・一五 | 東京高等師範学校 大正八・三・二六 |
| | 士博学医 | | | | |
| | 論文四 | 論文二 | 著書一 論文二 | 著書四 | 著書三 |
| 〇・五 四三三 | 五・四 四三三 | 〇・八 四三三 | 〇・八 四三三 | 〇・八 四三三 | 〇・九二 四三三 |
| 15,000 | 15,000 | 25,000 | 25,000 | 30,000 | 30,000 |
| 道海北 | 京東 | 京東 | 京東 | 東京 | 東京 |
| 男 | 男 | 男 | 男 | 男 | 男 |
| 一 大正一四・七 | 一 幸野密二 明治三九・八 | 四 坂井正郎 大正一〇・一〇 | 一 石田啓 大正一一・七 | 二 森秀 明治二五・三 | 明 佐々木等 明治二四・三・二九 |
| シヨン) | 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・一五 講師・体育方法 (リクリエーション) | 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・一五 講師・体育方法 (球技) | 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・一五 助教・体育方法 (球技) | 東京女子体育短期大学 昭和二四 教授・体育 | 宇都宮大学 昭和二四・教授・体育 |
| 118~122 | 114~117 | 109~113 | 73~76 | 105~108 | 101~104 |

| | | | | | | |
|------------------------|-------------------------------------|----|--------------------------------------|---|--|--|
| | | | ○ | ○ | ○ | |
| 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 |
| 講師 | 講師 | | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 |
| 専門科目兼任 | 専門科目兼任 | | 専門科目兼任 | 専門科目兼任 | 専門科目専任 | 専門科目専任 |
| 教育学部 広島大学教 育学部 | 教育学部 教授運動医 学 | | 東京大学講 師 | 国士館短期 大学講師 保健体育 講義及実技 | | |
| 学 体育社会 組 昭和一五 | 健康教育 論 学校保険 昭和一六・ 一二・二六 | | 医学概論 救急法及 看護法 昭和一三・ 三一 | 体育方法 (陸上競 技) 日本体育会体 操学校高等科 昭和一・三・ 三 | 体育方法 (格技) 昭和一七・九・ 二〇 | 体育方法 (体操) 昭和二〇・九・ 一五 |
| 東京高等師範 学校体育科甲 | 日本医科大学 昭和一六・ 一二・二六 | | 東京帝国大学 医学部医学科 昭和一三・ 三一 | 日本体育会体 操学校高等科 昭和一・三・ 三 | 国士館専門学 校 国漢柔道本科 昭和一七・九・ 二〇 | 東京体育専門 学校 昭和二〇・九・ 一五 |
| | 医学博士 | | 医学博士 | | | |
| 著書五 論文六 | 著書ナシ 論文九 | | 著書三 論文三二 | | | |
| 〇・八一 四三三 | 〇・五一 四三三 | | 〇・三一 四三三 | 〇・八 四三三 | 〇・一 四三三 | 〇・四 四三三 |
| 昭和三三 | 昭和三三 | | 昭和三三 | 昭和三三 | 昭和三三 | 昭和三三 |
| 3,000 | 3,000 | | 3,000 | | 15,000 | 15,000 |
| 阪大 | 島福 | | 知愛 | 新潟 | 京東 | 島福 |
| 男 | 男 | | 男 | 男 | 男 | 男 |
| 竹中玉一 明治三七・五・ 二三 | 豊田章 大正三・三・三二 | | 伊藤京逸 明治三九・四・ 二四 | 入沢甲寅 大正三二・一・ 二八 | 東政俊 大正八・三・二六 | 鈴木八郎 大正一三・六・ 二六 |
| 東京教育大学 昭和二五・三・一八 | 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・ 健・健康教育論 | | 国士館短期大学 昭和三〇・二一 講師・療育学・救 急法 | 柏崎短期大学 昭和二四・二〇 講師・体育 | | 国士館短期大学 昭和三〇・二〇・ 一五講師・体育方 法(体操) |
| 146~150 | 142~145 | | 133~137 | 128~132 | 123~127 | 77~80 |

| | | | | | |
|---------|---------------------|---------------------|------------------|------------------|--------------------------|
| | ○ | ○ | ○ | | |
| 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | |
| 助手 | 講師 | 講師 | 講師 | 教授 | |
| 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | 専門科目 | |
| 専任 | 兼任 | 兼任 | 専任 | 専任 | |
| | 慈恵医科大 学講師 細菌学 | 慈恵医科大 学講師 解剖学 | | | |
| (体操) | 細菌及免 疫学 | 発育論 | (格技) | (格技) | |
| 三 | 一五 | 二〇 | 一〇 | 一五 | |
| 昭和三一・三 | 日本体育大学 体育学部 | 東京慈恵会医 科大学 | 昭和一六・三 | 昭和一七・九 | 東京文理科大 学教育学科心 理学専攻 |
| | 士博学医 | 士博学医 | | | |
| | 論文一五 | 論文三 | | | |
| 六・一 | 〇・七 | 〇・六 | 六・一 | 〇・八二 | |
| 四三三 | 四三四 | 四三四 | 四三三 | 四三三 | |
| 8,000 | 3,000 | 3,000 | 15,000 | 3,000 | |
| 野長 | 知愛 | 阪大 | 森青 | 京東 | |
| 男 | 男 | 男 | 男 | 男 | |
| 一六 | 丸山孝司 昭和七・二〇 | 田中潤二 大正七・三・二 | 皿井長四郎 大正七・二・一 | 上野孫吉 大正一四・二・一 | 齋村五郎 明治二〇・五・四 |
| | | | | (格技) | 一五講師・体育心 理学・体育技 |
| 169~172 | 165~168 | 161~164 | 155~160 | 151~154 | |

〔四、教員個人調略〕

| | | | | | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 | 45 |
| 教授 | 教授 | 講師 | 教授 | 助手 | 助手 | 助手 |
| 教職科目兼任 | 教職科目兼任 | 教職科目専任 | 教職科目専任 | 専門科目専任 | 専門科目専任 | 専門科目専任 |
| | 国士館大学 体育学部教授 体育史・体育方法(体 操) | | | | | |
| 教育原理 教育史 | 保健体育 教育法 | 青年心理 学 | 教育心理 学 | 教育原理 教育実習 | 体育方法 (格技) | 体育方法 (球技) |
| 東京帝国大学 文科学部 哲学専攻 教育学専攻 | 東京高等師範 学校体操専修 科 大正六・三・ 二六 | 日本大学 文学部 心理学専攻 科 昭和二八・九 | 日本大学 文学部 心理学専攻 科 明治四一・七 | 早稲田大学 文学部 哲学 三 昭和三一・三 | 日本体育大学 体育学部 昭和三一・三・ 三 | 日本体育大学 体育学部 昭和三一・三・ 三 |
| 文学博士 | | 文学士 | | | | |
| 著書四 論文一〇 | 著書四 | 著書ナシ 論文七 学会発表 一一 | 著書一〇 論文四 | | | 著書一 論文三 |
| 二・五三 四三三 | 〇・八 四三三 | 〇・四 四三三 | 〇・二三 四三三 | 六・〇 四三三 | 六・一 四三三 | 六・一 四三三 |
| 昭和 三三 | 昭和 三三 | 昭和 三三 | 昭和 三三 | 昭和 三三 | 昭和 三三 | 昭和 三三 |
| 5,000 | | 15,000 | 30,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 |
| 岡福 男 | 京東 男 | 潟新 男 | 京東 男 | 田秋 男 | 媛愛 男 | 島福 男 |
| 松月秀雄 明治二五・九・二八 | 森秀 明治二五・三・二八 | 高島正士 大正一四・八・二三 | 小沢恒一 明治一六・六・六 | 菅原克夫 昭和九・八・二〇 | 行先博文 昭和八・六・二五 | 服部利夫 昭和五・二・一 |
| 東京理科大学 昭和二四・四 教授・教育学 | 東京女子体育短期 大学 昭和二四 教授・体育 | 国士館短期大学 昭和三一・九 講師・教育心理 学・青年心理学 | 早稲田大学 昭和二四・四 教授・教育学 | | | |
| 193~196 | 105~108 | 188~192 | 185~187 | 181~184 | 177~180 | 173~176 |

(内表紙)

「十、設置者に関する調」

第十、設置者に関する調

私立大学

一、役員氏名

顧問 石川一郎

顧問 安川第五郎

一万田尚登

松野鶴平

小原 直

藤山愛一郎

高島菊次郎

小坂順造

植村甲午郎

櫻田 武

野村吉三郎

木村篤太郎

野田俊作

洪沢敬三

松本健次郎

諸井貫一

理事 柴田徳次郎

柴田梵天

中村宗雄

樹下信雄

眞野正順

監事 会田彦一

藤田正実

学校法人国士館理事会決議録

昭和三十二年七月十五日午後二時、学校法人国士館会議室に於て理事会を開催し、理事五名出席、全員一致左記決議す。

一、国士館大学体育学部新設の件並びに設置認可申請の件

一、昭和三十二年七月二十日学校法人国士館評議員会開催の件

昭和三十二年七月十五日

出席理事 柴田徳次郎（印）

全 樹下信雄（印）

学校法人国士館評議員会決議録

昭和三十二年七月二十日午後二時、学校法人国士館会議室に於て評議員会を開催し、評議員七名出席、左記事項決議す。

一、国士館大学体育学部新設の件並びに設置認可申請の件

昭和三十二年七月二十日

全 眞野正順(印)

全 中村宗雄(印)

全 柴田梵天(印)

出席評議員 柴田徳次郎(印)

全 樹下信雄(印)

全 眞野正順(印)

全 中村宗雄(印)

全 柴田梵天(印)

全 会田彦一(印)

全

藤田正実(印)

三、
最近二ヶ年の決算及び完成年度までの予算

昭和三十年度収支決算

歳入 金八百五拾五万八千九百九拾六円也

歳出 金八百五拾五万八千九百九拾六円也

歳入歳出差引残金なし

〔昭和三〇年度収支決算表 略〕

昭和三十一年度収支決算

歳入 金壹千九百四拾四万七千壹百参拾円也

歳出 金壹千九百四拾四万七千壹百参拾円也

歳入歳出差引残金なし

〔昭和三二年度収支決算表 学校法人国士館寄附行為 略〕

(内表紙)
「十一、資産」

第十一、資産

一、資産総括

(一) 基本財産

一、校地

五、二〇一坪

一五六、〇三〇、〇〇〇

二、校舎

三、一六三坪〇八

七二、〇八二、〇〇〇

三、図書

四〇、九三一冊

三〇、四二七、三〇〇

四、機械器具

二、二四一点

五、八六四、三六〇

五、標本

八四〇点

八四六、七〇〇

六、備用品(校具、教具)

五、七六二点

一〇、三〇六、六〇〇

七、動物

二頭

一八〇、〇〇〇

八、樹木

三、九五二本

三一、〇〇〇、〇〇〇

計

三〇六、七三六、九六〇

(二) 運用財産

一、現金

三一、二、五〇〇

円

円

二、銀行預金残高

二〇、〇〇〇、〇〇〇

計

二〇、三一二、五〇〇

(三)

借入財産

一、校舎敷地

六、〇八八坪三五

二、運動場

一一、〇八一坪

計

一七、一六九坪三五

三、

円

東京都

一、二二〇、〇〇〇

私立学校振興会

九、八八四、〇〇〇

富士銀行

二、〇〇〇、〇〇〇

平和相互銀行

二、〇〇〇、〇〇〇

計

一五、一〇四、〇〇〇

総計

三四二、一五三、四六〇

〔貸借対照表、資産内訳、預金残高証明書 略〕

(内表紙)

「十二、維持経営の方法」

第十二、維持経営の方法

(一) 維持の方法

本学の授業料、入学金、検定料、証明手数等の外、併設学校（短期大学、高等学校、中学校）の収入、維持委員会の寄附により維持する。尚不足の場合は各理事が之を保証補填する。

(二) 維持委員会の目的及び組織は別紙の通りである。

〔国士館大学維持員会規約 国士館再建趣意書 略〕

収支予算書

昭和三十三年収支予算

歳入

經常部 金参阡貳百八拾五万五阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金参阡九百貳拾五万五阡円也

歳出

經常部 金参阡式百八拾五万五阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金参阡九百式拾五万五阡円也

歳入歳出差引残金なし

〔収支予算表 略〕

昭和三十四年度収支予算

歳入

經常部 金参阡七百参拾七万五阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金四阡参百七拾七万五阡円也

歳出

經常部 金参阡七百参拾七万五阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金四阡参百七拾七万五阡円也

歳入歳出差引残金なし

〔収支予算表 略〕

昭和三十五年度収支予算

歳入

經常部 金参阡八百拾万壹阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金四阡四百五拾万壹阡円也

歳出

經常部 金参阡八百拾万壹阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金四阡四百五拾万壹阡円也

歳入歳出差引残金なし

〔収支予算表 略〕

昭和三十六年度収支予算

歳入

經常部 金参阡八百六拾弍万壹阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金四阡五百弍万壹阡円也

歳出

經常部 金参阡八百六拾弍万壹阡円也

臨時部 金六百四拾万円也

合計 金四阡五百弍万壹阡円也

歳入歳出差引残金なし

〔収支予算表 略〕

(内表紙)

「十三、開設年次」

第十三 開設年次

第一年次、第二年次、第三年次

理由

新たに国士館大学体育学部設置認可の上は母体校たる国士館短期大学体育科の学生募集は停止の予定で、現在国士館短期大学体育科第二年次及第一年次に在籍の学生をそれぞれ新設国士館大学体育学部第三年次及第二年次に編入せしめたためである。

(内表紙)

「十四、現在設置している学校の現況」

第十四、現在設置している学校の現況

A、国士館短期大学

一、学校名 国士館短期大学

沿革 本学は、元専門学校令により昭和四年設立された国士館専門学校を母体として、昭和

二十八年三月設置認可され、国文科及び経済科(第二部)が置かれたが更に同三十一年三月体育科(三年制)の増設認可があった。国士館専門学校は設立以来文武両道の錬成を以てその特色としたが、昭和二十一年一月文科本位の内容に改め、至徳専門学校と改称され、本学設立と共に昭和二十九年を以て廃止された。

二、現行学則 別紙の通り。

三、教員 別紙の通り。

四、学生定員 第一部 国文科 八〇名 体育科 三〇〇名

第二部 経済科 八〇名

現在数 四百五十名

累計卒業生数 八五名

B、国士館高等学校

一、学校名 国士館高等学校

沿革 本校は元国士館中学校と称し、大正十二年四月の設立で、最初定員七百五拾名の所、昭和十七年定員一、〇〇〇名に変更、昭和二十年五月二十五日戦災に罹り、校舎の大部分を消失したが、昭和二十三年四月学則の改変により高等学校普通科に昇格。従来の国士館商業学校（夜間）は商業科に転換し、現在普通科（昼間）商業科（夜間）の二科よりなっている。

二、現行学則 別紙の通り。

三、教員 別紙の通り。

四、生徒定員 昼間 三〇〇名

夜間 四〇〇名

昼間 三〇〇名

現在

夜間 一八八名

累計卒業生数

昼間 六三六名

夜間 四二五名

C、国士館中学校

一、学校名 国士館中学校

沿革 本校は元国士館中学校と称し、大正十二年四月設立され五年制の旧制中学校であった

が、昭和二十二年四月学制の改変により新制中学校に転換した。

二、現行学則 別紙の通り。

三、教員 別紙の通り。

四、生徒定員 一五〇名

現在 一〇四名

累計卒業生数 二七八名

尚、旧制中学校卒業生を加えると四、二四八名。

〔国士館短期大学々則、国士館高等学校学則（普通科）、国士館高等学校学則（商業科）、国士館中学校学則 略〕

A 国士館短期大学

| 担当学 科 目 | 職 名 | 兼任 兼任の別 | 氏 名 | 学 略 | 職 歴 |
|--------------|-----|------------|-------|-----------------------|---------------|
| 一般教育 哲 学 教 授 | 専任 | 兼任 | 太田定康 | 東京帝国大学文学部 哲学科 | 国士館専門学校 教授 |
| 倫 理 学 教 授 | 専任 | 兼任 | 佐藤嘉祐 | 日本大学 法文学部 政治学 | 日本大学専門部 拓殖科 講 |
| 文 学 助 教 授 | 専任 | 兼任 | 宮沢林直 | 早稲田大学 文学部 国文学 | 東京文科大学 助教授 |
| 法 学 講 師 | 専任 | 兼任 | 柴田梵天 | 早稲田大学 大学院 法学研 究科 | 国士館専門学校長 |
| 生 物 学 講 師 | 専任 | 兼任 | 影山藤作 | 東京外国語学校 専修科 下 イツ語科 | 戸板女子専門学校 講師 |
| 生 物 学 講 師 | 専任 | 兼任 | 松本豊雄 | 北海道帝国大学 農学部 農 業生物学科 | 国士館専門学校 講師 |
| 漢 文 講 読 教 授 | 兼任 | 兼任 | 新田 興 | 早稲田大学 高等師範部 | 国士館専門学校 教授 |
| 漢 文 講 読 教 授 | 兼任 | 兼任 | 成井弘文 | 早稲田大学 法学部 法律学 | 早稲田大学法学部 教授 |
| 法 学 教 授 | 兼任 | 兼任 | 中村弥三次 | 早稲田大学 法学部 法律学 | 早稲田大学法学部 教授 |
| 生 物 学 教 授 | 兼任 | 兼任 | 江本義数 | 東京帝国大学 植物学 理科大学 植物学 科 | 学習院大学 教授 |
| 歴 史 講 師 | 兼任 | 兼任 | 神保規一 | 東京帝国大学 文学部 西洋 史学 科 | 東京経済大学 助教授 |
| 統 計 学 講 師 | 兼任 | 兼任 | 森 数樹 | 東京帝国大学 | 日本大学 教授 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|----------------------------|-----------------|-----------------------|-----------------|------|----------------|----------|
| 〃 | 〃 | 専門科目 (国文科) | 〃 | 体 育 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 外国語 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 中国文学教授 | 国語科教授 | 国文学教授 | 講義及実技講師 | 講義及実技講師 | 中国語講師 | 独逸語講師 | 英語講師 | 英語教授 | 英語教授 | 歴史(日本史)史講師 | 数学講師 | 社会思想史講師 | 経済学 |
| 専任 | 専任 | 専任 | 兼担 | 兼担 | 兼任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | |
| 新田興 | 安田喜代門 | 亀田純一郎 | 平間光雄 | 鈴木八郎 | 飯田吉郎 | 満足卓 | 清水良三 | 小辻節三 | 根本剛 | 片山巍 | | 日下藤吾 | |
| | 国学院大学 師範部 国語漢文科 | 東京帝国大学 文学部 国文学科 | 日本体育専門学校 中央大学 法学部 | 東京体育専門学校 体操科 | 東京文理科大学 文学科 漢文学専攻 | 東京帝国大学 文学部 独逸文学科 | 早稲田大学政治経済学部 同 法学部大学院 特別研究生 | 米国バークレー市太平洋宗教学院 | 東京帝国大学 文科大学 英文学科 | 東京帝国大学 文学部 国史学科 | | 東京帝国大学 経済学部 | 理科大学 数学科 |
| 国史館専門学校 教授 | 国学院大学 教授 大東文化大学 兼任教授 二松学舎大学 教授 福岡高等学校 教授 | 陸軍教授 第一高等学校 教授 | 二松学舎大学 講師 | 手 東京教育大学 体育学部 助手 | 東京文理科大学 漢文学特別研究生 | 日本大学 助教授 | 財団法人日本外政学会 調査員 | 関東学院大学 教授 | 中央大学 教授 国史館専門学校 教授 | 専修大学 講師 | | 青山学院大学 経済学部 教授 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|------------------|---------------|-----------------------------|---------------------|---------------------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|--------------------------|-----------------|--------------------|-------------|------------------|-------------|-------------|
| 〃 〃 (格技) | 〃 〃 生理及解剖学 | 〃 〃 栄養学 | 〃 〃 (陸上競技) 体育方法 | 〃 〃 (格技) 体育方法 | 〃 (体育科) 体育原理 | 〃 国語学講師 | 〃 国語学講師 | 〃 国語学教授 | 〃 国語学教授 | 〃 国語学教授 | 〃 国文学助教 | 〃 国文学講師 | 〃 文学思潮 | 〃 文学概論 | 〃 中国文学教授 |
| 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 教授 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 |
| 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 |
| 大野操一郎 | 佐藤英夫 | 小金井良一 | 金子藤吉 | 會田彦一 | 岡部平太 | 保坂弘司 | 三谷栄一 | 山岸徳平 | 寺川喜四男 | 寺川喜四男 | 宮沢林直 | 魚尾晃久 | 芳賀 檀 | 成井弘文 | 成井弘文 |
| 組 | 東京高等師範学校 体育科丙 | 東京慈恵会医科大学 | 東京帝国大学 医学部 | 東京高等師範学校 体操専修科 | 東京高等師範学校 体操専修科 | 早稲田大学 文学部 国文学科 | 国学院大学 文学部 国文学科 | 東京帝国大学 文学部 国文学科 | 早稲田大学 文学部 文学科 | 台北帝国大学 文政学部 大学院 | 早稲田大学 文学部 文学科 (前掲) | 大正大学学部 国文学科 | 東京帝国大学 文学部 独逸文学科 | 早稲田大学 高等師範部 | 早稲田大学 高等師範部 |
| 早稲田大学 剣道師範 | 科 医局員 | 東京慈恵会医科大学 整形外 | 昭和国际学專門学校 教授 青島医学專門学校 教授 | 海軍軍医学校 教官 | 昭和国际学專門学校 教授 法政大学 講師 国士館短期大学 講師 | 長崎大学 教授 福岡学芸大学 教授 | 昭和女子大学 教授 実践女子大学 教授 | 弘前大学 教授 実践女子大学 教授 | 東京文理科科大学 教授 実践女子大学 教授 | 駒沢大学大学院 教授 | 国士館専門学校 講師 | ベルリン大学 講師 | 第三高等学校 教授 | 広島女学院大学 教授 | 広島女学院大学 教授 |

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------|----------------------|--------------------------|----------------------|-----------------------------|---------------------------|------------------------|--------------------------------------|--|
| 〃 〃 (体育方法 格技) | 〃 〃 体育心理学 体育社会学 | 〃 〃 学校保健 健康教育論 | 〃 〃 体育管理 | 〃 〃 救急学 療育学 | 〃 〃 (陸上競技) 体育方法 | 〃 〃 生理学 解剖学 | 〃 〃 (リクレーション) 体育方法 | 〃 〃 (体操) 体育方法 | 〃 〃 (球技) 体育方法 | 〃 〃 (球技) 体育方法 | 〃 〃 (体育方法) |
| 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | | 講師 | 講師 | 助教授 | 教授 |
| 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 |
| 斎村五郎 | 竹中玉一 | 豊田章 | 西田泰介 | 伊藤京逸 | 入沢甲寅 | 幸野密二 | 平間光雄 | 鈴木八郎 | 坂井正郎 | 石田啓 | 加藤孝吾 |
| 京都武徳会立武術教員養成所 | 東京文理科大学 理学専攻 教育学科心 | 日本医科大学 | 東京高等師範学校 体育科甲組 | 東京帝国大学 医学部 医学科 | 日本体育会 体操学校 高等科 | 東京慈恵会医科大学 | 日本体育専門学校 中央大学 法学部 | 東京体育専門学校 体操科 | 東京教育大学 体育学部 体育学科 | 東京体育専門学校 本科体操科 | 日本体育会体操学校 高等科 |
| 警視庁剣道師範 国士館専門学校 教授 | 金沢大学 教授 広島大学 教授 | 東京教育大学 教授 東京教育大学 教授 | 同 社会教育局運動厚生課長 体育課長 | 文部省体育官 東京大学 講師 | 柏崎短期大学講師 | 日本大学 講師 | 二松学舎大学 講師 | 手 東京教育大学 体育学部 助手 | 東京教育大学 体育学部 助手 | 東京教育大学 体育学部 教授 東京芸術大学 講師 | 日本体育大学 教授 日本体育大学 女子短期大学 教授 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------------------|------------------------|-------------|---------------------|----------------------|---------------------|-------------|-------------|----------------|----------------|------------------|----------------|----------------|----------------|
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| 民 | 簿記及會計 | 經濟原論 | 商業學 | 經濟學 | 經濟學演習 | 世界經濟 | 經濟史 | 取引所論 | （體育方法） （格技） | （體育方法） （球技） | （體育方法） （陸上競技） | （體育方法） （體操） | （體育方法） （格技） | （體育方法） （格技） |
| 法講 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 助 | 助 | 助 | 助 | 助 | 講 |
| 師 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 手 | 手 | 手 | 手 | 手 | 師 |
| 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 專任 | 兼任 |
| 赤坂昭二 | 吉永 中 | 八木常三郎 | 樋口兼雄 | 佐倉重夫 | 鹿島宗二郎 | 小山正之助 | 菅原克夫 | 行元博文 | 服部利夫 | 丸山孝司 | 上野孫吉 | 醍醐敏郎 | 醍醐敏郎 | |
| 早稲田大学第一法学部 | 東京商科大学 | 早稲田大学商学部 同大学院交通經濟專攻 | 東京帝国大学經濟学部 | 東京帝国大学法科大学 經濟學科 | 東京商科大学 | 日本大学 法律學科 | 日本体育大学 體育學部 | 日本体育大学 體育學部 | 日本体育大学 體育學部 | 日本体育大学 體育學部 | 至德專門學校 國語科 | 東京高等師範學校 體育科 | 東京高等師範學校 體育科 | |
| 早稲田大学法学部 助手 | 滿洲國建國大学研究員 並二 講師 | 早稲田大学商学部 講師 | 熊本女子短期大学 講師 | 熊本大学 講師 早稲田大学 講師 | 中央大学 講師 關東短期大学 教授 | 日本大学經濟學部 大学院兼任講師 | | | | | | | 講道館研修員 | |
| | 申請中 | 申請中 | 申請中 | 申請中 | 申請中 | 申請中 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------|--------------------------|---------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------|----------------|-------------------------|------------------|-----------|-----------|---|
| 〃 | 〃 | 教職科目 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 教育史 | 教育原理 青年心理学 教育心理学 教育実習 | 教育史 教育原理 職業指導 | 経済政策 講 | 商法 講 | 財政学 講 | 経済政策 講 | 保険論 講 | 産業概説 教 | 経済史 法 | 民法 法 | 原書講読 講 | 工業概論 講 | 保険論 講 | 農業経済 講 | |
| 教授 | 講師 | 教授 | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | 教授 | 教授 | 教授 | 講師 | 講師 | 講師 | 講師 | |
| 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | |
| 松月秀雄 | 高島正士 | 小沢恒一 | 小川福次郎 | 林義雄 | 松下周太郎 | 加藤一雄 | 米高信 | 岩田耕作 | 中村宗雄 | 後藤友日子 | 森田健三 | 諸井忠一 | | | |
| 科(教育学) | 同大学院文学研究科 東京帝国大学文学部 哲学 | 早稲田大学文学部 専攻 文学部 哲学 | 中央大学経済学部 | 早稲田大学法学部 政治経済学 英法科 | 米国コロンビア大学 政治経済学 大学院 | 早稲田大学商学部 | 早稲田大学商学部 | 京都帝国大学経済学部 | 早稲田大学 法学部 法学科 | 早稲田大学 商学研究科 | 早稲田大学第二商学部 同大学院商学研究科 | 立教大学商学部 | 同大学院法学研究科 | | |
| 東京理科大学 教授 | 中央大学通信教育部 指導教員 教授 | 早稲田大学 教授 | 東洋大学助教授 | 早稲田大学教授 | 早稲田大学 教授 | 早稲田大学 教授 | 早稲田大学 教授 | 早稲田大学 教授 | 早稲田大学 教授 | 早稲田大学 教授 | 早稲田大学商学部 副主 | 高崎市立経済短期大学 講師 | | | |

申請中

申請中

| 職名 | 校長 | 専任兼任の別 | 担当学科 | 氏名 | 略歴 |
|----|----|--------|------|--------|---------------|
| 〃 | 教諭 | 〃 | 社会 | 柴田 梵天 | 早稲田大学院法学研究科卒業 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 川本喜三郎 | 日本大学卒業 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 佐藤 五郎 | 至徳専門学校 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 犬飼吉兵衛 | 立正大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 原重信 | 物理学校 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 萩村 岳右 | 東京理科大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 藤 泰純 | 大正大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 久保行雄 | 青山学院大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 大久保行雄 | 青山学院大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 山 曠 | 東京大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 沢 甲寅 | 日本体育大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 賀 保三 | 青山学院大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 田 啓介 | 早稲田大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 菊 郎 | 早稲田大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 木 達夫 | 早稲田大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 数社 | 鈴木 木達夫 | 青山学院大学 |

B 国士館高等学校 (普通科)

| | | |
|-------|------|------|
| 〃 | 〃 | 〃 |
| 教育法 | 職業科 | 国語科 |
| 講 師 | 教 授 | 助教授 |
| 兼 担 | 兼 担 | 兼 担 |
| 小川福次郎 | 岡部平太 | 宮沢林直 |
| (前掲) | (前掲) | (前掲) |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 講 師 | 〃 | 〃 | 〃 | | |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 兼 任 | 〃 | 〃 | 〃 | | |
| 武 道 小 川 忠 太 郎 | 武 道 上 野 孫 吉 | 英 語 清 水 良 三 | 理 科 原 田 仁 平 | 数 学 紫 藤 貞 昭 | 体 育 行 本 ^元 博 文 | 体 育 丸 山 孝 司 | 体 育 服 部 利 夫 | 社 会 野 中 公 達 | 体 育 見 目 正 基 | 武 道 大 野 操 一 郎 | 理 学 科 堤 清 | 数 学 文 成 井 弘 文 | 漢 文 菽 原 恭 男 | 国 語 菽 原 本 剛 | 英 語 根 本 剛 | 音 楽 筒 井 快 哉 | 日 本 史 片 山 魏 | 社 会 坂 本 辰 男 | 生 物 影 山 藤 作 | 数 学 岡 積 清 治 | 社 会 藤 本 泰 弘 | 武 道 宮 内 美 昭 |
| 国士館高等科 | 国士館専門学校 | 早稲田大学 | 東京理科大学 | 早稲田大学 | 日本体育大学 | 日本体育大学 | 早稲田大学 | 東京農業大学 | 東京高等師範学校 | 東京農業大学 | 早稲田大学 | 早稲田大学 | 早稲田大学 | 早稲田大学 | 早稲田大学 | 早稲田大学 | 至徳専門学校卒業 | 至徳専門学校 | 広島高等師範学校 | 大正大学 | 鹿兒島大学 | |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

B' 国士館高等学校 (商業科)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|------|--------|------|-------|-------|-------|------|----------|------|-------|----------|-------|----|--------|------|
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 講師 | 〃 | 〃 | 教諭 | 職名 | |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 兼任 | 〃 | 専任 | 兼任 | 専任兼任の別 | |
| 英語 | 体育 | 国語 | 数学 | 数学 | 社会 | 歴史 | 簿記 | 商業 | 商業 | 商業 | 簿記 | 珠算 | 簿記 | 簿記 | 英語 | 教務主任 | 担当学科 |
| 雑賀保三 | 丸山孝司 | 佐藤五郎 | 増山曠 | 山本信一 | 斉藤泰純 | 犬飼吉兵衛 | 大田昭二郎 | 後藤実 | 添田啓介 | 遠藤幸吉 | 西尾雄昌 | 櫻井信太郎 | 中根實子 | 大久保行雄 | 氏名 | | |
| 青山学院大学 | 日本体育大学 | 至徳専門学校 | 東京大学 | 東京理科大学 | 立正大学 | 駒沢大学 | 明治大学 | 早稲田大学 | 駒沢大学 | 早稲田大学大学院 | 東京大学 | 中央大学 | 青山学院大学卒業 | 略歴 | | | |

C 国士館中学校

| | | | | | |
|----|----|--------|------|--------|-----------------|
| 職名 | 校長 | 専任兼任の別 | 担当学科 | 氏名 | 職歴 |
| 〃 | 〃 | 兼任 | 数理科 | 柴田 梵天 | 早稲田大学大学院法学研究科卒業 |
| 〃 | 〃 | 専任 | 数理科 | 山本 信一 | 東京理科大学卒業 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 国語 | 国語 大祐 | 国士館短期大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 国語 | 牛島 一雄 | 国士館短期大学 |
| 〃 | 〃 | 兼任 | 数学 | 川本 喜三郎 | 日本大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 英語 | 賀保 三 | 青山学院大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 保健体育 | 沢甲 寅 | 日本体育大学 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 武道 | 宮内 美昭 | 鹿児島大学 |
| 講師 | 兼任 | 〃 | 理科 | 影山 藤作 | 岡山師範学校 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 職業 | 坂本 辰男 | 至徳専門学校 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 武道 | 上野 孫吉 | 国士館専門学校 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 社会 | 野中公 達 | 早稲田大学 |

(内表紙)
「十五、将来の計画」

第十五 将来の計画

一、学部及び学科組織に関すること。

現在の短期大学国文科及び経済科(第二部)を将来施設の充実と共に四年制にして教育の徹底を図る予定である。

二、学科目教員等に関する事。

現在の学科目は必要に応じ拡充し、これに要する教職員も準備する。

三、校地校舎等に関する事。

校地については将来隣接地の買収をなし運動場として拡張する予定である。

四、図書、標本、機械器具等に関する事。

図書、標本、機械、器具等は毎年予算を計上して現在の補充を速かに完成すると共に、教育の完遂を期して教材の補充に努力する。

五、母体校のあるときはその転換方針

母体校たる国士館短期大学体育科の設置認可当時の体育科専用の校地、建物、図書、機械、器具備品、教員、学生をあげて新設の国士館大学体育学部設置の為に吸収充当する。従つて昭和三十三年四月国士館大学設置認可の上は、既存の国士館短期大学体育科は学生募集を停止し、自然廃校となるものとする。

六、校地、校舎、図書、機械、器具、教員、学生の転換方針

- 1 校地は、国士館短期大学体育科（以下短大体育科と称す）専用校舎敷地一〇〇〇坪及専用運動場三〇〇〇坪を新設国士館大学体育学部（以下大学体育学部と称す）の専用の一部に充当する。

- 2 短大体育科専用校舎のうち、体育館、武道場、学生控室、学生便所（二ヶ所の内一ヶ所）及運動具庫（共用）を新設大学体育学部専用校舎に充当する。
- 3 図書のうち短大体育科専用図書五、三四三冊（内訳一般教育図書一、八〇〇冊、専門図書三、五四三冊）を新設大学体育学部専用図書として充当する。
- 4 標本のうち、短大体育科専用二一〇点は、新設大学体育学部専用に充当する。
- 5 機械器具のうち短大体育科専用三九六点を新設大学体育学部専用に充当する。
- 6 教員のうち短大体育科専任教員十二名を新設大学体育学部専任教員として採用し、又短大体育科兼任教員も新設体育学部兼任教員として委嘱する。
- 7 学生のうち短大体育科在籍者で、第二年度及第一年度学生は、それぞれ新設大学体育学部第三年度及第二年度に編入する。

*1 国士館大学 一九五八（昭和三三）年四月、国士館は、念願の大学を創設した。学部は、体育学部の一学部、いわゆる単科大学からのスタートであった。学科は体育学科のみ、入学定員一〇〇人で発足した。

体育学部の設置により、施設の充実・整備が急務となり、大学創設直前の一九五七（昭和三二）

年九月九日、体育学部校舎として五号館（RC4階建）を起工し、翌一九五八年三月三十一日に竣工・完成した。次いで、一九六〇（昭和三五）年七月、日本水泳連盟公認の五〇mプール（現体育・武道館付近）を建設した（口絵「施設の充実と整備」参照）。

授業では、各専門分野に応じて指導教員を採用し、当初は、陸上競技、剣道、柔道、相撲、バスケットボール、器械体操、野球などの教員を招聘し、それに応じてクラブも設置した。そのほか、臨海実習・スケート実習・スキー実習などが実技科目として設けられた。また、一九六一（昭和三六）年度からは女子学生が入学し、ダンス・ピアノ及び伴奏法を女子用科目とした。

その後の大学経営については、申請書「十五、将来の計画」において「現在の短期大学国文科及び経済科（第二部）を将来施設の充実と共に四年制にして教育の徹底を図る予定である」としている。そして、この構想は、一九六一年の政経学部設置で結実することになる。